

研究紀要

第 19 号

(目 次)

論 文

- 伝承歌謡論 — 一つの「遊びうた」を追って(下) — …… 木 村 重 利 … 1
- 体格・体力テストの縦断的考察 …………… 音 海 紀一郎 … (1)
- サッカーにおける状況判断能力テスト作成について …… 藤 村 武 … (9)

教育実践報告

- 2000年度第2回海外研修(ホームステイ)実施報告書 …… 河 野 直 樹 … (23)
-

2000

獨協中学校・高等学校

伝承歌謡論

——一つの「遊びうた」を追って(下)

国語科 木村重利

四、大人の歌の「あの山で光るものは」

手毬唄の「光るものは」の一方に、大人の歌の「光るものは」がある。しかも、そこには二つの方面があったようだ。一つは仕事歌としての定着、もう一つは盆や雨乞い、あるいは社寺の祭礼に奉納する、踊りの歌としての定着である。

1、仕事歌としての伝承

「光るものは」の歌の仕事歌としての定着でまず挙げるべきは麦打ち唄である。

「光るものは」の手毬唄の分布の広い埼玉県(上編参照)では、それに重なって入間郡の東部では麦打ち唄としても伝承されている。ただし、「光るものは」の詞句を伝える麦打ち唄は、埼玉県下の麦打ち唄として広い伝承を持つ七五七四型の^註それではなく、オハチマン、とかオオハチマン(「御八幡」「大八幡」の字をあてている)

といわれるものにおいてである。

その麦打ち唄は、次の歌詞を代表とし、その呼称はその謡い出しからきているらしい。

○大八幡の森の鳥 なぜ騒ぐ さ渡る こわるきの 与一殿に
追い立てられて さ渡る

○大八幡で さわぐ中へ 誰が文 投げこむ ホッホッ その文
の来るが故に くるり棒の足がそろわぬ コケコケコケヨ う
んとコケ 醬油だる しぼればまだ出る^註

ほかに次の二つの歌詞を伝えていて、その一つが「光るものは」になっている。

○あれ見さい 向かい見さい 猿が材木なんぞ 引くとな 山藤
たぐり寄せて えんやらやれこさいと 引くといな

○あの山で光るものは 月か星か蛍か 月ならば拝みましょか
蛍ならば手にとり 手にとりて袋入れて 前のお稲荷さんへお
納めよ

ここでの「光るものは」は手毬唄と全く同型なのである。しかも今日確認できる麦打ち唄「オハチマン」の歌詞は、以上の四つのみである。「あれ見さい、向かい見さい」など、類歌の探索をまつまでもなく、中世末期か近世初頭にまでさかのぼれそうな古風な、しかも芸謡的その発想から、麦打ちの仕事歌以前を想像できるのであるが、関東台地の仕事歌の文句として一時期謡い継がれていたらしい。^註

ただ、オハチマンの歌詞として伝える四つのうち、管見の限り

はあるが、ほかはほとんど他所での報告例がないのに、「光るものは」だけが各地の仕事歌として伝承されているのである。東京都多摩地方でも「麦搗き唄」として伝えられている。

○あの山で ひかるものは 月か星か螢か 螢ならば 手にとり
手にとりて籠に入れて つゆをくれてながめます テッキン
ポッキン ムケタカ ドッコイ フイテミナ(多)
こちらの方は、埼玉県におけるくり棒を使つての麦叩き、つまり、麦のノゲを落とす「麦打ち」ではなく、石臼を使つての足踏み
の麦搗きの作業歌であるが、「打つ」「搗く」は同類の作業であると言
えるから、リズム的には同種の仕事歌と言える。

オハチマンなる「麦打ち唄」については、かつて一度とりあげた
ことがあつて、そこでの検討は、必ずしも十分なものではないが、
その時点で確認し得た資料による限り、詞章の上からは社寺の祭祀
(八幡社に關つてか)か、建築儀礼に伴う風流系統の「引き歌」と
しての前身を推定したのであつた。その後も類歌の蒐集を進めなが
らこの歌の検討は続けてきたわけだが、いよいよその推定は固くなつ
ている。

この歌が風流系の「引き歌」としての前進を持つものであるとす
れば、それが「打つ」とか「搗く」といった作業歌へ移行するのも
それほど無理ではなかつたらうと思われる。

ところが、労働形態としては、「打つ」「搗く」と大きく異なる
「田植え」の歌としての伝承も広く行なわれていたのである。麦の
作業歌として確認される伝承が関東台地、それも入間、多摩という

武蔵野丘陵地帯を中心としたものであるのに対して、田植え唄とし
ての伝承は北陸地方において一つの色濃い伝承の型のようなものが
あり、それはやや異つた系統を見せながら各地に広く確認される
伝承となっている。

まず北陸地方の伝承の典型として、石川県の珠洲郡・鳳至郡・鹿
島郡地方での伝承がある。ここでは、これまで見てきた「光るもの
は」が詞章的にもやや変化していて、この地方の「光るものは」の
詞章はほぼ次の形であつたようだ。

○向かいの山に 光るものは なんじやいやい 今来る嫁のたい
まつか さしあげてもせやさ男(輪島市西山町)〈石〉

「光るものは」の田植え唄の伝承は各地に拾うことができ、共通
しては短詞章で、土地による変化を見せている。

○向い山で ピカピカ光る 月か星か螢か 月でもなし 星でも
なし あなたをまねくくずの葉(宮城県栗原郡栗駒町)〈み〉

○向うの山に光るは 月かほしか ほーたるか(岡山県上房郡)
〈俣〉

○だいせん山にひかるは ハラ 月か 星か 螢か ヤレ サセ
く(同県川上郡)〈同〉

○アヨ 田んぼの中の オッチャンネ 月か星か 光るよ(鹿児島
島県熊毛郡中種子町)〈鹿〉

挙げたものは飛び飛びの伝承例ではあるが、畑作の仕事歌である
麦打ちや麦搗きの「光るものは」に比較して、田植えの「光るもの
は」の定着は広かつたと言えるかと思う。また、田植え唄としての

「光るものは」は短章で、前述したこの歌の要素ということからすると、ほぼ、第一型のように近い形での伝承であったということになる。それは同じく単調な動作の繰り返しでありながら、苗を「植える」(挿す)という労働のリズムと麦の作業である「打つ」「搗く」という労働のリズムの違いから来るものであろうか。単調な動作の繰り返しという労働そのものの辛さは同じでも、一方が一種旋律的であるのに対して、一方が拍節的であるということも関係しているかもしれない。また、麦打ちは向き合って道具を振る、麦搗きも石臼を踏むという力仕事、激しい労働であって、特に大勢でくるり棒を使う麦打ちは何打ちかしたあと、小休止を入れないと続かないのである。また、その何度かの小休止には麦を返す作業も入る。そうした一区切りの単位が麦打ち唄に見られる詞章の長さになるのかもしれない。七五五七四型の麦打ち唄は、前半句の七五で一〇打、後半の五七四を一五打で謡い、掛け声(「ヨーホー ホッホッ」とか「ホイホイ ホイホイ」として間に入る部分に二、三打入って、合計二七、八打で一つの文句を謡い終わる(字余りのものはそれぞれ二、三打多くなる)。それに対して、田植えというのと同じく大勢による同一作業であるが、厳密に他者と呼吸を合わせる必要はない。神事とか信仰といった意識が薄くなった田植えで謡われる仕事歌としての田植え唄は、単調で辛い(腰の痛み)作業の中の気晴らし、慰安をめざすものに変化した。詞章的にも美しく、なだらかな節回しの田植え唄が多いのもそれを示している。謡って気持ちよく、聞いて気持ちよいものが喜ばれたのである。

ともあれ、「打つ」「搗く」作業の歌と「植える」作業の歌が同じリズムで謡われるはずはない。当然のことながら、「打つ」「搗く」という仕事と「突く」という毬遊びとは近い。その点からすれば、田植え唄よりは麦の作業歌の方が手毬唄と近い関係にあると言えるし、現に両者の詞章の近似性も確認済みである。とはいえ、それが麦の仕事歌と手毬唄の「光るものは」の先後関係の決め手にはならない。そのことは保留するとして、これまでの「光るものは」の追跡の中で、次のようなまとめをすることは許されるかと思う。

麦打ち唄・麦搗き唄の労働歌と手毬唄とは同種の動作であり、ともに一動作の連続であることで、同じ詞章(「うた」)が採用されやすい。ただし、両者には力の量の多少、全身的动作に対して手先だけの動きということもあって、仕事歌の方には、ある程度の反復に、区切りというか小休止がある。手毬唄の場合は、それに対して失敗したところでひと区切り(突き手の交替)であるから、技術の向上と歌の連続性は比例する。そこに、より長編化した詞章も用意される。「あの山に光るものは」の手毬唄が第一・二・三型を大きく越えて長大化していったのはそこにおいてである。

2、踊り歌としての伝承

大人の歌の「光るものは」のもう一つの伝承は踊り歌のそれである。いわゆる風流踊歌といわれるものの中に、広くこの詞章を見出すのである。これも管見に入ったものからいくつか挙げておくこと

にする。

○ヤァ 向いの山に 光るものは何じゃ お月か星か 蛍の虫か
今来る嫁の たいまつか 今来る嫁の たいまつならば 振
りあげてとぼせ ようとぼせ（注）〈福〉

福井県大野郡西谷村栗原の「平家踊り」として伝えるもの。この
詞章の北陸地方での伝承は根強く、同上打波村（現大野市）の「神
子踊り」、石川県石川郡河内村白峰の「かんこ踊り」などでも「光
るものは」の詞章を伝えている。

「平家踊り」は盆（八月十四、五、六日）や正月、小正月、鎮守
神明社の祭礼（七月十五、六日）などに踊られ、「神子踊り」は盆
踊り、「かんこ踊り」は祭礼や酒宴（酒席）で踊られるもの。

同じ北陸は富山県の「神楽踊」に「向ひの山」という一曲があっ
て、「向ひの山」に始まる三つの詞句を伝え、その一つが「光るも
のは」になっている。

○向ひの山に啼く鴨（よどり）は 鳴いてはのぼり 朝草刈りの眼を覚す

○向ひの山をかつことすれば 荷縄が切れて かつかれぬ かつ
かれぬ

○向ひの山に光るものは何ぢや 星か螢か黄金の虫か 今来る嫁
のたいまつならば 差し上げてもやせやせをとこ（俚）

すでに検討済みの田植え唄、手毬唄も合わせると、「光るものは」
の詞章が富山・石川・福井という北陸地方に強く根付いていたこと
がわかり、しかもこの地方では「光るもの」正体を「今来る嫁の
たいまつ」という形で定着させていたようである。

むろん、風流踊歌中の「光るものは」の伝承は北陸地方に限らな
い。手元の資料から拾い出してみる。

Ⅰ 高田の町で 光りしものは 月か星か螢の虫か 夜来殿（まよら）の松

明かく（注）（兵庫県赤粟郡波賀町、ザンザカ踊・チャンチコ踊）

Ⅱ むかい小山にひかるハなにぞ あさ草かりの鎌ひかり いやひ

かり（京都府北桑田郡美山村鶴ヶ岡、奉納踊）〈同〉

Ⅲ 西に光るハ 月かよ星かよ 月でもござらぬ 星でもござらぬ

あれこそ この宮 宮立よく（滋賀県草津市上笠、雨乞踊

「二の宮踊」）〈同〉

それぞれの踊りの歌自体の機能とは別に、詞句内容からは、殿御
の忍びを待ち望む恋の歌（Ⅰ）、草刈り唄（Ⅱ）、祭礼に奉納する宮
讚め唄（Ⅲ）という仕立てになっている。

Ⅳ 向い山で光るは何か 月か星かほたるむし 月でもないか星で

もないよ しゅうとめござんの目が光る（静岡県引佐郡引佐町

渋川、ひよんどりの歌）〈静〉

「ひよんどり」は盆の踊りである。この「しゅうとめござんの目

が光る」はもはや戯歌であるが、この型が子供の盆の囃子唄の「盆々」

や各地の盆踊り唄として及んでいる（後節）前提に、やはり風流踊

歌の「嫁御踊」（嫁そしり、袴踊、嫁引踊、嫁振踊）とか「姑踊」

といった嫁・姑をテーマにした組歌があって、そうしたものから戯

歌化されて、遊び的傾向を強めてもて囃されていくのであろう。単

独で伝えられた盆踊り唄が『俚謡集』にいくつか見える。

○向うのお山になにやらひかる 月か 星か 螢の虫か 月でもないが 星でもない 姑ばばの目がひかる (茨城県行方郡)

○向うの山になにやら光る つーきか 星か ほたるの虫か 月でもないが 星でもないが だいなご様の お江戸へお立ち

その早お船のろがひかる ろがひかる (愛知県西春日井郡)

○西山では 何やら光る 何やら光る 月か星か螢のむしーかー 螢の虫か 月でもないーが 星でもないーいーが 星でもないーいーが 牛若殿が 寺入りめーさーるー 寺入りめーさーるー お馬のお鈴が光り候 七つでは鞍馬の山で くらまのー山でー ひるはお寺で学問めーさーるー (以下略) (三重県三重郡)

最後の例は、やはり風流踊歌として広く謡われている「牛若踊」とか「鞍馬踊」といった組歌に入っていたことを物語っている。言うまでもなく、盆踊も一つの風流踊なのである。

さて、こうして「光るものは」の広がりを追ってみると、この詞句が本来、子供の遊び歌(手毬唄)であったとは考えにくくなる。細かくは次節に譲るとして、この歌はやはり大人の歌としての伝承がまずあって、それが子供の歌に及んでいったとみるのが素直な見方であろう。

そう想定した上で、その大人の歌の場合も、「踊り歌」としてのそれがまずあって、それから仕事歌にまで及んだと考える方が順当のように思う。「あの山で光るものは月か星か螢か」の発想は田植えや表打ちの仕事歌のそれではない華やかさと優雅さを持っている。

五、大人の遊び歌と子供の遊び歌

さて、大人の歌から子供の歌へという道筋で「光るものは」を捉えるとして、それではこの歌(詞章)の本来的機能は何であったろう。前節で述べたように、それはやはり祭礼歌(神社のまつり、寺のまつり)というか行事歌(盆や正月などの年中行事や雨乞いや豊年などの祈願、感謝のまつり)といった、歳事的・信仰的な側面を持った踊り歌の詞章として生まれたものであったろうということである。むろん、口頭伝承の、いわば偶然的な記録資料(口頭伝承は本来、記録とは無縁であった)をどれだけ操作したところで明確な決め手にはならないのであるが、ここまでの追跡によって確認し得た類詞句の定着・伝承の相から、より妥当な一つの可能性として「光るものは」は踊り歌の詞章として生まれたものであったと言えるのではないか。そしてもう一つにはこの詞句自身の本質的意味からもそうした道筋が想定できるように思う。

「あの山で光るものは云々」という詞章自体の持つ神秘的・信仰的な響きということである。人にとって、本来的に「光るもの」(輝くもの)は信仰・祈り(拜み)の対象である。そこに畏敬する思い、讃仰する思いが働くのは人の心として自然である。つまり、神仏に寄せる思いと同等のものを「光るもの」に感じているのである。この詞章が発想されてくる根幹はそれである。

次の例なども発想の基底にあるものは同じであろうし、「光るものは」の歌の周辺歌とみることができる。

○安芸の高野の福王寺 お山がかりをながむれば すぎやひのき
やもみなへや かすみがりかやら見事 御門がかりをながむ
れば 四方さがりに中高に 背戸は松山小松山 前は林のかん
こでら 八つのたにから清水わく 清水ではないゆずみ湧く
きんわけ桶わげびしゃく 向ふ山にひがとぼる もえてながれ
るやれ見ごと(広島県安佐郡、大踊歌「ふみ」〈俚〉)

○わたしや筑紫の者なるが 今年始めて宮島に さらば参詣まう
すなり(中略) 神の威を増す玉垣や きねが鼓や大般若 そ
の御経の有り難や 百八の燈籠が水に映ろへば 沢の螢か秋の
夜の 星の光もこれならで その名も高き経堂の 五重の塔の
九輪まで 名所古墳は多けれど さらば下向をいたすなり(同
県佐伯郡、宮島踊歌)〈同〉

後者においては御神燈のあかりと螢・星の光をとり合わせて神威を讃仰している。何としても、光り輝くものの代表は神仏(の威光)である。だから、それが手毬唄の中で謡われていった時、稲荷・不動・地藏・観音に捧げる燈明に連想が及ぶのは偶然でないものがあるのであろう。

一方、神仏から尊い人への讃仰になって転換したのが「大納言様」
「中納言様」「江戸の公方様」なのであった。さらに「嫁の松明」
「殿(夜来る)の松明」にも及んでいて、そこにも多少敬意・讃仰の思いは込められているが、「姑(姑ばば)の目」にまで及んでい

るのは、宗教性・信仰性が薄れて「踊り」なり「遊び」なりの慰安性・娯楽性が主体になっていく過程を示しているのであろう。

もうひとつ、すでにあげた富山県の「神楽踊」や「向ひの山」が示しているように、「向うの山」「あの山」に関心を寄せる歌の多いことがここに合わせて挙げられる。

今、細かい手続きを踏んでいる余裕はないが、それらもやはり、中世後期から近世初頭の風流踊の流行の中で成長発達して、その後各地各種の歌の詞章として採用されていったものらしいのである。

風流踊歌の中の「光るものは」以外の「あの山」「向うの山」類は枚挙にいとまがない。いくつか拾って、その謡い出しを並記してみる。

○向かいの山のちどりをごろうじ(高知県香美郡夜須町手結、ツ
ンクツン踊「あや踊」)〈語〉

○向い小山で小柴刈るとて物ひろふた(同、同「小柴踊」)〈同〉

○あの山の さんこみ山の さあつゝじの枝を二枝(同、室戸市
東の川、太刀踊)〈同〉

○あの山寺へ お稚児を 上げてく

○あの山で 太鼓の鳴るは 吾が子か稚児か

○あの山寺の お庭の生洲ゆげす

○あの山寺の お庭の紫竹(以上、広島県山県郡加計町津波、太
鼓踊「あの山寺」)〈同〉

○向ひの山は さんぎのお山く(同、同「向ひの山」)〈同〉

○急げよ小しんぼうち(反復省略) 向い小山から雨が降り来る

(兵庫県水上郡松原町新井、新法師踊「入端」)〈同〉

○むかひの山の ところかずら 三百三のしゅめかずら (奈良県

吉野郡十津川村武蔵、盆踊「大踊」)〈同〉

○向いの山で 茶の水くめば 十九の殿に手を締められる (同県

同郡大塔村篠原、篠原踊「向の山踊」)〈同〉

○向ひ小山の雉子が住やらん ほろろんうつ (滋賀県草津市上笠

雨乞踊「越前道行」)〈同〉

○あの山のたかきたまやはだがたてた (外に「あの山のたかきみ

はかのひかりこそ」(愛知県南設楽郡鳳来町鹽瀬、念仏歌)

〈同〉

○あの山てらすハつつちかてらす (新潟県柏崎市、綾子舞「小切

子舞」)〈同〉

○あのやまあらしハ あらしでわなない (外に「あの山みさいこの

山みさい」)〈同〉

さらに各種の仕事歌、盆踊り唄そして手毬唄などの子供の遊び歌

となると、それこそ枚挙に暇がない。

「向うの山」「あの山」がこれほど関心が持たれる背景(人の心

情)は何であるのかということが問題である。「向うの山」「あの山」

は、発唱者にとっては本来他郷であり異郷であろう。少なくとも他

郷・異郷との境の山と意識されたであろう。そこに、神秘的な所・聖

なる所、「神のいます山」という畏敬も生まれてくる。加えて、生

活人の実感にまで降りてくると、生活のたずきを得る山になり、異

郷で眺める場合は故郷の山(あの山の裏側に故郷がある)になる。

神歌や仕事歌(樵唄・草刈り唄など)・望郷歌(子守り唄・恋唄)などにそこから発想されたものがある。

そうした大もとの部分にあったのが、神社・寺院の祭儀や盆・雨乞いなどの行事に踊られる風流踊の歌の「向うの山」「あの山」であったのだと思っっている。

風流踊歌の「あの山」「向こうの山」の歌詞の一つに「光るものは」の詞句も生まれた。そしてそれらは、むろん踊り歌として継承されていくが、その他祝い歌・仕事歌・余興歌など各種の歌にも及んでいった。その伝播の道筋の一つに手毬唄などの子供の歌もあつたということであろう。

ともあれ、「あの山で光るものは」が手毬唄として伝承されることになったのも、こうした「向こうの山」「あの山」の歌の流れの上に立ってであろうと思う。中でも「月」「星」「螢」という子供の感覚に受け入れられやすい題材による、わかりやすい文句仕立てであったことが、より子供の歌への迎え入れを容易にしたと思われるのである。

六、あそび——神遊びと遊戯

結局、「あの山で光るものは」の詞章は、盆や雨乞いや祭礼などにおける踊り歌であつたろうということである。

盆・雨乞い・祭礼と言ったものは、古義の「遊び」(神遊び)で

ある。つまり、この詞章はいわば大人の「遊び歌」として発生したものであったのである。したがって、当初からこの歌には信仰性・厳肅性が賦与されていたのであるが、「踊り歌」としての性格から、次第に信仰性・厳肅性が薄れて、娯楽性・慰安性が強く意識されていく中で、戯れ歌的变化も伴いながら一つの流行歌現象が起り、田植え唄や麦打ち唄といった仕事歌や酒席の余興歌にまで及んでいく一方、その発想の楽しさ(夢想的な)から子供の歌にまで迎えられたのであった。そこに、信仰的・行事的「遊び」から、遊戯的・日常的「遊び」への過程を見ることが出来る。端的に言えば、「神遊びの歌」から「遊戯歌」への転換である。

流行歌現象を前提に、「あそび」の転換を考える上で、その転換を容易にした、いわば橋渡しの役割を果たした「歌の場」「歌の時」として、盆の行事の一つ「盆々」が考えられるように思う。この行事はもともと盆の風流踊の一つである「小町踊」とか「七夕踊」であったわけであるが、近世後半期には、子供達が道々を謡い囃しながらつなげて歩くという遊びに変化し、その歌は「練り」の囃子歌になったものである。

行智編『童謡集』(文政三年?)に「ぼんく」として収録しているが、「ぼんくくは、けふあすばかり、あすはよめのしほれ草云々」と「向ふのお山のすもう取草を、えんやらやと引けば御手がきれる云々」と合わせて、この「光るものは」の詞句が見える。

○向ふの御山で何やら光る 月か螢かよばいばしか 月でもないが 星でもないが しようめ婆の目が光るく

前出したものの中にもあった「光るものは」の正体を「姑婆の目」とするものは、娯楽化した盆の行事なり踊りのニワでの戯歌化を経由しているのであろうか。「しようめ婆の目が光る」は、盆が済んだあと、婚家に帰って姑婆の目の光りに窮屈な日々を送ることになる嫁を「しおれ草」としたところ、また、月と螢に並べて「よばい星」を入れたところなどに、大人の戯歌化の跡が認められるが、もはやこうなってしまうては全くの「遊び歌」である。「嫁姑」「夜這い」は、娯楽踊りになってからの盆踊り唄の一つのテーマでもあった。「嫁姑」のテーマは、戯歌の手前に共同体における「人のあり方」「暮らしのあり方」を説く教訓歌としての効用があったと思われる。

もう一つ、岡本昆石編の『あづま流行子供うた』(明治二七年)にも「盆々唄」が見える。一つは「向ウ、このお戯で光るハ何だ。月歟星歟螢の虫歟。月イでも無いが。星イでも無いが。山城様(やましりさま)が日光(にっこう)へ御座る。」以下、前述の連想式尻取りによる長編仕立てのものになっている。そしてもう一つが次のもの。

○向ウ、このお山に。何にイやら光る。月歟星歟。夜ヲ、這ひ星歟。月でも無いが星でも無いが。とつ目子僧の目が光アる。目が光アる。

ここでは子供の思いつきらしい「一つ目小僧の目」に言い換えている。

さて、「あの山で光るものは」の詞章を、「大人の遊び」の歌であったものが「子供の遊び」の歌へ採り込まれたという大筋で辿る

ことで一つの納得がいくとした上で、子供の歌の中でも手毬唄としての色濃い伝承を納得するには、やはり柳田国男の次の指摘に頼るしかあるまい。

手毬の遊びが女の童の遊戯となる以前、田楽法師などの売る技術であったこと、唄が其時代から既に存在して、万歳の才蔵に該当する助手見たやうな「をかし」が、もとは之に参与して居た(以下略)

とし、

シテが掲げた毬を受け止めようとすれば、目を毬から放してはならぬのを、脇に居て色々と、遠くの物へ気を散らせるやうに、珍しいことを謂ふのである。

という(「手毬唄の話」柳田国男全集第十七巻)、その伝統・方式の中に「あの山で光るものは」も吸収され、掲げ手毬用の歌から突き手毬用の歌の時代になっても引き継がれたのであろうということである。その突き手毬も、糸毬からゴム毬の時代になって、弾みがよくなり、軽い力で突くことが可能になり(ということとは、歌への興味・関心がより強くなり)、しかもそうそう失敗することもなくなった結果、テンポも早くなった上に、突きの持続が可能になったことで、長詞句の歌が必要になってくるので、そこに生まれたのが、他の歌を連続させての「あの山に光るものは」の長編手毬唄であったと思う。「あの山」とか「向こうの山」といった相手の注意を遠くにそらそうという謡い出しに続けて、AかBか(あるいは、さらにCか)といった、問い掛けがまたこの歌の一つの面白さであり、

相手のいる「遊び歌」の詞章として一層の面白味を感じたものらしい。そこに替え歌も生まれている。

おそらく、「あの山で光るものは」の替え歌であろうと思われるものがいくつもある。謡い出しは「あの山」「向こうの山」の両様があるが、ともに各地に手毬唄として謡われてきたものである。

①あの山で わらび折るのは ひとの嫁ごか娘か 娘か 嫁なれば 手づけのないもの 娘なれば入り婚^ま 入り婚 入り婚に酌をとらせて そばの小姑が腹立つ 腹立つ(以下略)(埼玉県志木市)

②向こう山で鳴く鳥は ちゅうちゅう鳥か 三井鳥か 玄三郎の土産に 金差簪貫るた 屏風のかげに置いたれば ちゅうちゅう鼠が曳いてった どこからどこまで曳いてった(以下略)(山形県)

③向けあ山の萱刈りは 新五郎どのか 五郎どのか 五郎どのござってお茶あがれ お茶菓子はなにに 天下一の香函^か(以下略)(宮城県)

七、「うた」の変化と流動——結びにかえて

一体、「うた」とはいかなるもの、「謡う」とは、人の行為のうちでどういふことなのかということから、伝承歌謡を取り上げるのであれば、生きた伝承歌謡論にはなるまい。「歌謡儀礼論」なるも

のがもし成り立つとすれば、まさに「うた」「謡う」とは、生きていく人間にとって何程のもので、「生きる」ということのどの部分でかわわってくるのかということに究めた上でのことだろうと思っ
ている。

「うた」(歌謡・謡う歌)は、その起源（由来）がどうであれ、いずれ人間の日常から離れた、特別の時間・空間の営みとして成立しているのだと思う。とすれば、当然「謡う」という行為も、「訴ふ」か「打つ」(打ち上ぐ)かという、その言葉の起源（由来）はさておくとして、これも日常的な行為ではなからう。

その非日常性というのは、当然「うたの言葉」(歌詞)の上でも言えることで、日常の「言葉の生活」を越えたものとして、「謡う」言葉の生活を考えていかなければならないということである。

同一の言葉ではあっても、それを「話す」ということと、「謡う」ということとは違っていたのではないか。別な言い方をすれば、同じ言葉でも、「謡う」という行為を通して発唱された場合、日常的な言語機能を越えて、「うた」としての機能がそこに意識されていたのが本来ではなかったか。

歌謡の詞句を注意深く観察してみると、単純に、その言葉の意味機能だけを考えても、「謡う」という行為を通じた場合には、日常の意味機能と違う、いわば「歌謡語」(謡われた語)としての意味機能が働いているらしいことが多い。それを生み出すのは、場と時が日常のそれと違うからである。日常と違う場と時において行なわれる行為を「儀礼」あるいは「儀礼的なもの」と呼ぶのであろう。

とすると「うた」はそれ自体、儀礼的なものと捉えていいことになる。

ただし、今日まで伝承されてきた民謡とかわらべ唄とかを問題にする場合は、「儀礼」としての「うた」「謡う」ということが全く日常の営み(行為と言葉)から遊離しているもの、隔絶されたものとして扱いきれるものではないように思われる

今日辿ることが出来る民謡とかわらべ唄というものは、いわば「生活の歌」であり、それを「謡う」ということは、日常の生活を基盤に据えた「生きる」「生きていく」ということと大きく関わっていたと思われるからである。そこに「信仰」から「娯楽」(遊び)までの「うたの効用」が働く。

確かに、「うた」は本来的に日常的な産物ではなく、「謡う」(広く「語る」「唱える」も含めて)という行為も日常的な行為ではないと思える。少なくとも、その起こりを考えた場合はそうであろう。とすると、「うたの言葉」(単に一語々々ということばかりでなく、文句という一つのまとまりという点からも)も、日常の言語生活のそれと機能的に同一視することはできない。その「日常でない」という基準はどこに据えてのことかという点、その時の人の「心」である。

端的に言えば、「謡う」時の人の心は、どういう意味(明暗、高揚、沈潜、緊張、弛緩など)にしろ、尋常の枠を越えたところで保持されている。そこにおいて、「うたの言葉」は機能するわけであるから、それも尋常を越えて作用する。「うたの言葉」自体、その

表現が過剰だったり誇大だったりするものもそこに起因する。当然、それを発する時の謡う人の心は、日常的な感情から解放され、その時々「うたの場」に叶った心情の中に入って、「うた」と向き合うことになる。

日常からの解放という一語で片付けてしまうと誤解を招くことになるかもしれない。「解放」という言葉が悪ければ、一時的「絶縁」あるいは「脱出」かもしれない。または「遊離」といった方がよからうか。「解放」というと晴れやかで伸びやかな方向ばかりを考えてしまいが、日常の中にはない緊張、敬虔という方向も考えてのことである。

「うたを謡う」ということは、ともかく、日常性を越えて、特殊な状態に入ることである。それが「厳粛」「厳格」「緊張」といった方向に向けて作用するのが「祈り」とか「祝い」というもので、その時発せられる言葉の集合体が神事歌とか祝い歌というものであると考えればわかりやすい。その言葉の発し方が「祭りの場」とか「祝いの場」というような、日常性を越えた場における、通常の言葉の発し方と異なる次元のものであったから、「言ふ」ではなく「唱ふ」であり「語る」であり「謡ふ」であったのだと思う。

そう考えて、「祈り」であり「祝ひ」（斎ふ↓祝ふ）である「うた」であるから、そこに一つの方式があって、「うたの場」の持たれ方、その言葉の発唱の仕方となってあらわれる。その方式は厳格に守られてこそ、「うたの効用」が発揮される。そして厳格な方式（作法）が組み立てられるのは、そうでない日常の方式が対比されて一方に

あるからである。言い換えれば、長く平板な日常の生活が「うた」及び「謡う」厳格さ・厳粛さ（平たくは特別性）を成立させている。その意味で「うた」「謡う」という言葉と行為は、一つの規範性を有する型を成立させていると考えていいのだと思う。

「祈り」とか「祝い」ということを持ち出したのは、「うた」が日常を越えたものであることを考えてみる場合に最もわかりやすく納得しやすいものであるからである。それは、「謡うこと」の目的というか機能というか、「めざしているもの」が明確に把握されやすいという点で、今日の神事歌、祝い歌を考えてもひとつながりとして括れるからである。

神事歌とか祝い歌を離れて、それでは仕事歌とか踊り歌とかを考えた場合はどうかということである。

まず仕事歌であるが、共同作業で謡う場合は、仕事のリズムを多人数で確認するための歌ということになり、その言葉は次第に仕事そのものを離れて、自由気儘になり、場合によってはその旋律も仕事のリズムと合致していればいいのであるから、その時々においてわれ人ともに気分が乗りやすい歌を採用したりする。時代々々の流行歌が詞曲ともに仕事歌に取り込まれている場合が多いのはそこにおいてである。その時点になると労働の苛酷さとか長時間に渡る単調な動作の繰り返しからくる苦痛を紛らわすための歌という意識がいよいよ強くなって、まさに「うたの言葉」は手当たり次第、口から出放題という傾向を強めるようになる。まさに心の解放であり弛緩であり、過剰表現・誇大表現による「笑い」を目指すものが喜ば

れるようになる。この部分において、例えば信仰性を捨てた盆踊りなどの踊り歌の娯楽性・慰安性と重なってくる。

ただ仕事は仕事を進める（進行させる）ために謡う、踊り歌は踊りを楽しむために謡うというのが本来ではなかったと思う。もともと「踊り」自体、信仰的なものであったはずであるから、そこで謡われる言葉自体も勝手気儘にということではあるまい。

仕事歌についても、その本来の機能について少し考えてみると労働の苛酷さ、苦痛を紛らわす為に謡うというようなことではなかったと思う。端的に言えば、作業の進行を助けるといのが労働歌の本来の目的ではなかったということである。仕事を円滑に進行させるためのリズム歌、仕事の辛さを娯楽・慰安で紛らわし、時に性的な下卑た戯れ文句をことさらに言い立てる笑い歌というのが、仕事歌の本来のあり方ではなかったはずである。

仕事歌の根幹は、仕事の進行のためというよりは、仕事の無事な完遂・成就を願うためというところに存在したのだと思う。つまり、仕事歌は「祈り」であったといっているのだと思う。そして、その「謡う時」というものも、仕事をしながら延々と謡うといったことではなく、仕事の開始時（仕事にかかる前ということも含めて）において謡うのが本来であったと思う。あるいは無事仕事が終了した時点で、それを喜び、感謝して謡うということもそこに付け加えてもいいかもしれない。そういう形で捉える仕事歌の機能は、端的に言えば「神への祈り」であったろう。

そうした仕事歌本来のあり方は、例えば田植え唄において、その

詞章の注意深い吟味で今日でも確認できるし、地搦みや地形などと言われる建築の作業歌の謡い方を観察することでも幾分納得できよう。もっと端的に、そうした仕事歌の古風をとどめて、今に引き継がれているのは、山入りの歌である。山入り唄、木おろし唄などの「謡う作法」とその「言葉」である。

また、かつて論じたことがあるが、例えば暑い盛りの共同作業である麦打ち唄などの、数限りない歌詞を見渡してみると、まさに類型的な広がり各地に求めることができる流行歌的なもの、即興的なものが圧倒的に多い中で、それでも麦打ちの作業を意識して、しかも、その順調な「運び」を願って謡っているかに思われる「大事な歌詞」（必ず謡うとか、まず謡うといった歌詞）があつて、しかも、それは無事な、順調な仕事の運びを願って仕事開始時（一番最初に必ず謡う」といった説明はもはや聞けなくなっているが）に謡われたのではなかったかと思われものである。

そうした「大事な歌詞」というものを取り出してみると、共同作業という中で、単なる調子取りの歌として、その言葉には無頓着に、ただ口を突いて出まかせに謡っているかに思われる共同作業歌の「麦打ち唄の場」にも、一つの歌次第というものが自然と生まれていて、「うた」が一つの型のもとで謡われるのが本来であったといふことが見えてくる。

大人の歌であつたらしい「あの山で光るものは」の「うたの型」がどのようなものであつたかは、まだ十分見えてこないけれども、必ずやその謡われる時と場にかかわつての詞章であり、それを通し

て果たしていた効用があったはずなのである。

神歌・踊り歌・仕事歌から、手毬や子守りなどの子供の歌へという道筋がなお明確になるとき、この詞章の本来的な「うたの場」とともにあったその機能が明確になるのだと思う。

注9、コチャエ節の流れに立つものという。コチャエ節については、その源流は一説に山梨県甲府盆地周辺の踊り歌であるとか、三宅島辺の盆踊り唄であるとかの説が行なわれているが、いずれ関東一帯に行なわれた流行歌であったようだ。

注10、埼玉県富士見市・入間郡大井町などで採集されている。二つ目の詞章は「くるり棒の足がそろわぬ」と、麦打ち唄らしい詞句を入れているが、次に続いている囃子詞には、この文句が醤油絞りにとも謡われた経歴を見せている。渡り職人である「醤油屋」(家々を回って醤油を絞る職人)などがこの詞章を持ち込んだものかもしれない。

注11、四つの歌詞のうち「八幡の森の鳥」については「俚謡集」では、埼玉県入間郡の「麦打歌」、「俚謡集拾遺」でも同じ入間郡の「初摺歌」としても収録している。

注12、『多摩ふるさとの唄』(原田重久著、昭和四六)

注13、「民謡の歌詞——埼玉県の麦打ち唄をめぐる」(『埼玉県史研究』第15号、昭和六〇・三)

注14、石川県教育委員会編の『石川県の民謡』には、引用したものは、か、珠洲郡内浦町・珠洲市若山町・輪島市広江・鳳至郡穴水町中波

での伝承を載せている。また『俚謡集』や『石川県の民謡』(北陸放送編、昭四二)では鳳至郡・鹿島郡の伝承を収録しているが、ほぼ同じもの。

注15、『石川県の民謡』(石川県教育委員会、昭和五五)

注16、『みやぎの民謡』(宮城県教育委員会、昭和六〇)

注17、『俚謡集』(文部省文芸委員会、大正三)

注18、『鹿児島県の民謡』(鹿児島県文化財報告集、第三〇集、鹿児島県教育委員会、昭和五九)

注19、『福井県の民謡』(福井県民俗学会、昭四二)

注20、『語り物・風流二』(本田安次、昭和四五)

注21、『静岡県の民謡』(静岡県文化財報告34、静岡県文化財保存協会、昭和六一)

注22、ほかにも風流踊歌の組歌の一つに、「向こうの山」「向かいの山」なるものを伝えている所は多い。広島県山県郡加計町の「太鼓踊」の「向いの山」、奈良県吉野郡大塔村「篠原踊」の「向の山」など。しかし、それらに「光るものは」の詞章は含まれていない。

注23、○あの山高くて新庄が見えぬ 新庄恋しや山にくや(山形県新庄村)

○山もと山が退いたらよかる 塩津が見得て尚よかる(淡海國、

杵唄・白曳歌、『鄙廼一曲』)

○あの山高いので我家が見えぬ 我家恋しや山僧や(三重県、子守唄、『日本歌謡集成』十二)

○山が高くて馬関が見えぬ 関は恋しや山僧い(山口県、雑謡、

【同】

○山が高くてあの家が見えぬ あの娘恋しや山にくや（島根県、

舞踊歌、【同】）

○山が高くて山中見えぬ 山中恋しや山僧や（石川県、山中節、

【同】）

○山が高くてといちが見えぬ といちかわいや山僧い（岡山県、

田の草取歌、【岡山の民謡】）

○山で高うてあの家が見えぬ あの家恋しや山にくや ヤッシン

ゴイゴイ シャリントゴイゴイ（岡山県久米郡久米町、木挽き

唄、【同】）

○山が高うて甲州が見えぬ 甲州恋しや山にくや（山梨県、製茶

唄、【日本民謡大観】四）

注24、「向こうの山」「あの山」の類の子供歌の例をいくつか拾いあげ

ておく。ただし、これもその謡い出しのみにとどめざるを得ない。

○向うの山の相撲取り花は エンヤラヤと引けば お手々が切れ

る（東京、動物植物唄、『日本民謡大全』〈童謡研究会、大正

一五〉）

○向山のピカピカは 鳩でもないか 雉子でもないか（千葉県上

総、鳥追ひ唄、〈俚〉）

○あゝれ見ろやあれ見ろや 向ふのお山あれ見ろや（同県海上郡

童謡、〈同〉）

○むかふ山ちゃっからこっから光る あれこそありこのなかうど

（新潟県中魚沼郡、正月、鳥追歌、〈同〉）

○向ひの山さ めん鳥をん鳥飛んで来た めん鳥だらぶつつせ

（福島県北会津郡、動物の唄、〈同〉）

○向山の丹波栗 熟んでこぼれて 拾はれて（宮城県仙台市、手

鞠唄、〈同〉）

○向ふの山の蛙が啼くが なして啼くか ひもじて啼くか（島根

県、遊戯唄、〈同〉）

○向ふの山に猿が三匹止まって 前の猿は物識らず（同県松江市、

手鞠唄、〈同〉）

○向うのお山の 雨ふり花が 咲いたか咲かぬか わしゃ知らない

の（岩手県、手鞠唄、『日本伝承童謡集成』四）

○向うの山見りゃ木の葉が落ちる あれが落ちたら雪が降る（長

野県・兵庫県、子守唄、【同】一）

○奥の山みりゃ去にとてならぬ 雪はちらちらなさない（長野

県・兵庫県、子守唄、【同】一）

○向こうの山見りゃ去にとてかなん 小松林を親と見る（長野県・

兵庫県、子守唄、【同】一）

○向うのお山さ れんげの花の 咲いたか咲かねやが わしゃ知

らぬ

○向うの山で ぜんまいわらびは なぜにお首が曲がった（以上、

千葉県、手鞠唄、【同】三）

○向いの山がびっかり光る あれ誰さんぞ 勘平さんの嫁入の時

の（京都府、子守唄、【同】一）

○向こうの山見りゃ帰とうござる 親や兄弟の声がする（奈良県、

子守唄、『同』(一)

○向こうの山見りゃ木の葉が落ちる 取っても来い(秋田県、手毬唄、『同』四)

全詞章を引用できないのが残念だが、子供の歌になってからのものか、いかにも子供の発想によるらしい、たわいない詞章、さらには手毬唄になったものは、ここでも他の歌を取り込んで長編のものが多い。

注25、鹿児島県曾於郡末吉町では祝宴の時の歌「書生節」としても伝承されている。(『鹿児島県の民謡』)

注26、高知県幡多郡では「子守唄」としても謡われていた。(『俚謡集拾遺』)

注27、ともに各地に多く謡われているもので、そこにも口頭伝承の揺れが見られるが、いちいち挙げるわけにはいかないので、『日本伝承童謡集成』の中でそれぞれの類歌を伝える地域(都道府県名)のみを挙げておく。

①「蕨折り」——長野・栃木・茨城・群馬・埼玉・千葉

②「鳴く鳥」——静岡・山梨・埼玉・栃木・神奈川・東京・長野・群馬・新潟・福島・山形・岩手・秋田

③「萱刈り」(木切り、竹切り)——岩手・山形・福島・宮城・長野・東京・栃木・山梨

圧倒的に手毬唄として伝えているが、②や③は「縄跳び唄」とか「子守り唄」としても伝えている。

注28、「うた」の起源をめぐっては諸説あるが、信仰起源説とか感動起

源説(恋愛起源説)あたりで落ち着くものと思われる。

注29、「うた」の語源説もいくつか提出されているが、「訴ふ」「打つ」「打ちあぐ」から来たとするのが、無難で納得しやすいものと言えよう。

注30、宮崎県西都市銀鏡(もとは児湯郡東米良村銀鏡)の「木おろし唄」は、仕事歌というものの本来的な機能をうかがわせてくれる。そこでは木おろし作業に出発するときの山の神への挨拶である「朝の出がけ唄」に始まり、山に着いてからは「朝ののぼり木の唄」「昼ののぼり唄」「夕方のおり木の唄」、そして「帰り唄」と、それぞれ先頭の音頭で合唱することで一日の「木おろし次第」が組み立てられていたという(竹内勉著『日本の民謡をたずねて、うたのふるさと』音楽之友社、昭和四四)

注31、注13論文

上を向いて歩こう

作詞：永 六輔／作・編曲：中村八大

上を向いて歩こう 涙がこぼれないように

思い出す春の日 ひとりぼっちの夜

上を向いて歩こう にじんだ星を数えて

思い出す夏の日 ひとりぼっちの夜

幸せは雲の上に 幸せは空の上に

上を向いて歩こう 涙がこぼれないように

泣きながら歩く ひとりぼっちの夜

思い出す秋の日 ひとりぼっちの夜

悲しみは星のかけに 悲しみは月のかけに

上を向いて歩こう 涙がこぼれないように

泣きながら歩く ひとりぼっちの夜

ひとりぼっちの夜

YOU ARE MY SUNSHINE

作詞・作曲：Jimmie Davis-Charles Mitchell

唄：キャロライン洋子

You are my sunshine

My only sunshine

You make me happy

When skies are gray

You'll never know dear

How much I love you

Please don't take my sunshine away

Purpose *Condensed Activity Schedule* Month *July + August '00*

Sun.	Mon.	Tues.	Wed.	Thurs.	July	Fri.	21 Sat.	22
Free Time	23 9-12h Class Time 12h-4pm Steele Lake Park Return:4:15-4:30	24 9-12h Class Time 12-4:30pm Super Mall Return:4:45-5pm	25 9-12h Class Time 12-4:30pm Super Mall Return:4:30-5pm	26 All day trip to Seattle Depart 9am Retrun:4:30-5pm	27 9-12h Class Time 12h-4pm Lake Fennewick- Frisbee golf Return:4:15-4:30	28 9-12h Class Time 12h-2pm Lunch cooking and cleanup Free after 2pm	29 Free Time	29 Free Time
Free Time	30 9-12h Class time 12h-4pm Bowling/Video Arcade Return:4-4:30pm	1 9-11:30 Class time 11:30-6pm Little Si/Snoqualmie Falls Return:5:45-6pm	2 All day trip to U W,Flight Museum, Mariner's Game Depart 9am Return:10-11pm	3 9-12h Class time 12h-4:30pm SeaTac Mall and Movie Theater Retrun:4:45-5pm	4 9-12h Class time 12h-2pm Lunch cooking and clean up Farewell Party	5 Farewell! Leave EGHS by bus at 8am		

午後は山登りと滝下り。心地良いハイキング。

※引率教員の佐々木先生と河野はグツタリ（笑）。

【8月2日(水)】

授業はなしで、一日中、シアトルへ遠足。

午前中はワシントン大学のキャンパスツアー。昼食は各自自由に。

午後からは航空博物館見学。

夜はシアトル・マリナーズの野球観戦。

※模造紙に“佐々木 獨協高校”の文字を書き、それを生徒が持っているところが、大画面のスクリーンに映し出された。一同、大歓声！“Good Job!”

【8月3日(木)】

午前中は学校で授業。

午後はシータック・モールで昼食。その後、映画鑑賞。

【8月4日(金)】

午前中は学校で授業。この日は最後の授業となる。

昼食は先週の残りの半分がフレンチトーストを作った。

午後は、夜行われるフェアウェル・パーティーの準備と練習。

夜、フェアウェル・パーティーが盛大に行われる。日本食を振る舞い、日本文化を紹介し、日米国際親善に大きな役割を果たした。“Good Job!”

【8月5日(土)】

涙の別れで学校出発。

サンフランシスコへと向かう。チャイナタウンで食事。ツインピークスなどを見学し、ヒルトンホテルに到着。

【8月6日(日)】

サンフランシスコ観光。午前中はアルカトラズ島へ行く。昼食はフィッシャーマンズ・ウォーフで蟹を食べる。その後、ゴールドンゲイト・ブリッジへ行き、ホテル着。自由時間を3時間。

【8月7日(日)】

ロサンゼルスへ。イタリア料理の昼食後、市内観光後、ユニバーサル・スタジオへ。夜の8時まで満喫する。

【8月8日(火)】

たくさんの思い出を乗せ、ロスの空港を後にする。

【8月9日(水)】

15時55分、無事、成田空港到着。高木教頭はじめ、多数の保護者の皆さまの出迎えがありました。お世話になったアメリカの皆さん、本当にありがとうございました。

獨協高等学校ホームステイプログラム

最終予定表 (文責 河野)

【7月21日(金)】

シアトルタコマ空港到着後、学校へ。昼食後、学校キャンパス案内。スティール湖でウェルカム・パーティー。

※実際は、湖の公園のトイレが故障で水が出ないため、急遽、学校に戻り、学校の体育館でパーティーを行った。

ウェルカム・パーティー終了後、生徒は各ホストファミリーと帰宅。

【7月22日(土)】ホストファミリーと過ごす。

【7月23日(日)】ホストファミリーと過ごす。

【7月24日(月)】

午前中は学校で授業。

午後はソルトウォーター公園で昼食とピクニック。

【7月25日(火)】

午前中は学校で授業。

午後はオーバンのスーパーモールで買い物。昼食はここで。

【7月26日(水)】

授業はなしで、一日中、シアトルダウンタウンへ遠足。

スペースニードルへ行った後、自由時間。

【7月27日(木)】

午前中は学校で授業。

午後はfrisbeeゴルフ。

【7月28日(金)】

午前中は学校で授業。

昼食は半分の生徒がサンドウィッチを作る。

午後は自由時間。

【7月29日(土)】ホストファミリーと過ごす。

【7月30日(日)】ホストファミリーと過ごす。

【7月31日(月)】

午前中は学校で授業。

昼食はマクドナルドで。

午後はボーリング。

(実際は予定を変更して、レーザータグというレーザー光線のゲームをした。)

【8月1日(火)】

午前中は学校で授業。

7/28	Friday	9am-12pm	Class at the education center.
		12pm-2pm	Class will prepare a homemade American lunch. Students are free to go with the host families.
7/29	Saturday		Free Time with host families.
7/30	Sunday		Free Time with host families.
7/31	Monday	9am-12pm	Class at the education center.
		12pm-4:30pm	Bowling at AMF Bowling center. Bring a sack lunch money for McDonald's next door. Bowling costs will be provided, but you can bring your own money for video games if desired. Walking or carpooling.
8/1	Tuesday	9am-12pm	Class at the education center. Carpool trip to Snoqualmie Falls. Bring a sack lunch comfortable hiking attire, and camera.
8/2	Wednesday	9am-5pm	All day excursion to the UW campus and the Museum of Flight, by bus. We will tour the UW in the morning. Bring a sack lunch or money to buy lunch. After lunch we will go on to the Flight Museum.
8/3	Thursday	9am-12pm	Class at the education center.
		12pm-5pm	Carpool trip to SeaTac Mall and Movie Theater. We will attend a movie and then explore the mall for the rest of the afternoon. Bring a sack lunch or money to buy lunch. Admission to the movie is provided, but you can bring money for snacks if desired.
8/4	Friday	9am-12pm	Class at the education center.
		12pm-5pm	Class will prepare a homemade American lunch. Students are then free to prepare for the farewell Party.
		6pm	Farwell Party
8/5	Saturday	TBA	SeaTac Airport for return to Japan.

FINAL ITINERARY

— DAILY SCHEDULE —

DATE	DAY	TIME	ACTIVITY & COMMENTS
7/21	Friday	TBA	Students arrive at Sea-Tac Airport and will be transported to the Educational Center for lunch, and tour the campus. Carpool to Steele Lake for a Welcome Party.
		6 pm	Pot Luck dinner with host families. Students will go home with their host families.
7/22	Saturday		Free Time with host family.
7/23	Sunday		Free Time with host family.
7/24	Monday	9 am-12pm	Class at the education center.
		12pm-16:30pm	Carpool trip to Saltwater State Park for a Picnic lunch and beach. Bring a swimsuit and towel and a sack lunch. Then on to downtown Des Moines for a walking tour of the marina, little shops and ice cream. Bring a money for shopping!!
7/25	Tuesday	9 am-12pm	Class at the education center.
		12pm- 5 pm	Carpool trip to "The Great Supermall of the Pacific Northwest in Auburn". Bring a sack lunch or money to buy lunch. There are many great places to eat!! Bring shopping money!!
7/26	Wednesday	9 am- 5 pm	All day excursion to downtown Seattle. Buses will be provided to take us sight seeing, shopping, and to a trip up the Space Needle. Bring a sack lunch or money and shopping money.
7/27	Thursday	9 am-12pm	Class at the education center.
		12pm-4:30pm	Carpool trip to Fennwick Park for lunch and frisbee golf. Bring a sack lunch and your favorite frisbee. We will provide frisbee for those who need one.

ホームステイ中のアドバイス

充実したホームステイにするためにも、心に留めておきましょう。

- ①挨拶をきちんとしましょう。
- ②清潔な服装を心掛けましょう。
- ③与えられた部屋は常に整理整頓し、貴重品はスーツケースに保管して、必ず鍵をかけましょう。
- ④アメリカでは水は貴重品です。節水を心掛けましょう。シャワーでお湯を使いすぎないようにしましょう。
- ⑤“Thank you.” “Excuse me.” “Please.” は人間関係の潤滑油です。一番役に立つ言葉ですから、常に口から出てくるように練習をしておきましょう。
- ⑥たとえ英語が理解できなくても、ホストファミリーと一緒にステイしている人たちと一緒にいましょう。会話上達のコツはどれだけ耳から英語を入れるかです。英語を聞いた時間が長ければ長いほど確実に能力は向上していきます。
- ⑦自分の言いたいことを英語で言うことは大変困難ですが、照れないで、そしてあきらめずに一言でも言うようにしましょう。
- ⑧相手の言っていることが理解できなくても、あきらめずに、“Pardon?”を繰り返して、理解できるまで粘りましょう。英語上達のもう1つのコツは粘りと度胸です。一生懸命努力する人には、誰もが好感を持ちます。
- ⑨以心伝心はアメリカでは通用しません。希望すること、要望をはっきりと相手に伝えましょう。それで相手が心証を悪くすることはありません。むしろ、はっきりしない態度の方が心証を悪くします。
- ⑩外出する時は、必ず行き先と帰宅時間をホストファミリーに知らせましょう。
- ⑪ホストファミリーとの約束は必ず守りましょう。
- ⑫何でも構いませんので、1日1つお手伝いをしましょう。
- ⑬無断外泊をしてはいけません。
- ⑭ホストファミリーの許可なしに友達を家に呼んではいけません。
- ⑮理由なく部屋にこもってはいけません。
- ⑯ホストファミリーの家の電話を使う時には、必ず断ってからにしてください。日本への国際電話は原則的に禁止します。
- ⑰遠慮しすぎてはかえってマイナスです。但し、あまり多すぎる要求もしないでください。
- ⑱自分のホストファミリーと友達のホストファミリーを比較しないでください。ホストファミリーによって多少の差が出るのは当然です。そのことで不平を言うのは避けてください。
- ⑲ホストペアレントはアメリカでのあなたの親代わりであることを忘れないでください。あなたのことを本当の子供と同じように心配してくれます。ホストペアレントに心配をさせないようにして行動してください。
- ⑳食事について
 - A. 全員が食べ終わるまで席を立たないでください。
 - B. スープや飲み物を飲む時には、音をたてないでください。
 - C. 食事の支度、片付けを手伝いましょう。
 - D. 食事の後に必ず“Thank you very much.”を言うことを忘れないでください。

㉑ホームステイ先が変更になった場合、引率教員に必ず報告してください。

研修全般のアドバイス

※日本ではいけないことは、アメリカでもしてはいけません。当然ですね。

- ①気持ちよく挨拶をしよう。(挨拶は万国共通の基本です)
- ②時間厳守を忘れずに。
- ③忘れ物をしないように。(自分でしっかり管理しましょう)
- ④個人行動は慎もう。(勝手なことはしない)
- ⑤全て他人任せにしないで、自分のことは自分でしよう。
- ⑥服装は派手にならないように。
- ⑦健康に留意すること。

【空港にて】

- ここでは、大声での指示は出せません。次の行動を考え、各自が注意をしているようにしてください。また、25人もの人数ですので、指示があるまでバラバラにならないようにしてください。スーツケースのチェックインは団体で手続きをしますので、はぐれると搭乗できません。
- 出国手続き・入国手続きは、各自で行うことになります。入国手続きは当然、英語で行われますね。

【飛行機の中での注意】

- ①指定された座席に着き、勝手に変わらないこと。また、フライト中は、トイレ以外で席を立たないこと。シートベルトのサインが消えても、ベルトをはずさないこと(ベルトを緩めておく)。※突然、乱気流に巻き込まれることがあります。
- ②行きの飛行機で、食事は夕食(出発後まもなく)、朝食が出ます。
- ③夜間飛行なので、一般乗客は眠るようにしています。くれぐれも騒いで他のお客さんに迷惑をかけることがないようにしましょう。諸君も翌日からハードなスケジュールが待っていますので、目をつぶり、ゆっくり休むように努力をしましょう。
- ④上記の理由から、機内でカメラのフラッシュは厳禁です。
- ⑤貸切バスとは違います。後ろを向いての話やトランプはしないこと。
- ⑥トイレの使用について：OCCUPIED=使用中，VACANT=空き。(“ノック”を必ずしましょう！)
- ⑦特別な用もないのに、座席にあるボタンを押して、客室乗務員を呼ぶことのないようにしましょう。

【ホテルにて】

- ホテルのロビーでROOM LISTに従い、部屋の鍵を渡されます。各部屋はオート・ロックなので、部屋を出る時には、必ず鍵を持って出ること。閉じ込みをすると、すぐには開けてくれません。自分でフロントに行き、英語で対応することになります。
- 勝手に部屋を変わったり、移動したりしないこと。緊急の連絡が入らなくなります。
- ホテルは貸切ではありません。他のお客さん(アメリカでは我々が外国人になります)も当然います。迷惑にならないように注意して行動するようにしましょう。また、廊下は建物の外と同じです。気をゆるめないよう、自分の身の安全の確保に注意してください。スリッパ・ジャージ姿など部屋のスタイルで部屋から出ることが決していないよう注意をしてください。部活の夏合宿ではありません。
- ホテルでの朝食には決して遅刻をしないように注意をしてください。また、ルームサービス利用で清算が必要な者は、各自が出発までに済ませるように。※くれぐれも、寝坊・遅刻などしないように。自信がない諸君はモーニング・コールを頼んでおきましょう。

【その他、気がついたことをメモしておきましょう】

携帯品チェックリスト

【機内持ち込み手荷物にするもの】

- ※タテ・ヨコ・高さの合計が115cm以内であれば機内に持ち込み可能。
- ・デイバッグまたは小さめのスポーツバッグなどを使用
(モーニングクラス、小旅行の時にも使います)

貴重品

- パスポート(外国に出たら命の次に大切な持ち物です) ※コピーを何枚か用意しておきましょう。
- 現金[財布](日本円/米ドル) ※小旅行の時にはチップ用小銭も用意しておきましょう。
- トラベラーズチェック(サインは全てにしておきましょう。番号も必ず控えておくこと)
- 旅行傷害保険証書(お守り代わりに、携行品もセットで早めに加入しましょう)
- 顔写真予備(パスポート再発行時に備えた予備写真1~2枚)
- スーツケースのスベアキー

必需品

- 筆記用具(旅行用手帳, シャープペンシル, ボールペン, マーカー類, その他)
- ノート(授業用, また日常生活で学習したことのメモ用として。現地で購入するのも勉強でしょう。)
- 洗面用具
- 辞典(英和/和英) ※旅行用の軽いものが良いでしょう。
- 電卓(買い物の計算は素早く)
- しおり(この冊子), ホームステイ完全マニュアル, 各種ガイドブック等
- 常備薬(風邪, 頭痛, 腹痛, バンドエイド, 虫さされ等, 体温計) ※海外では薬の入手が困難。
- カメラ, フィルム, 乾電池(外国は2倍くらい高いので, 多めに持参したい。)
- 貴重品入れ, セイフティーグッズ(パスポート, 現金は身につけて安全に)
- 目覚し時計(薄型でコンパクトなものを。時間厳守が大事です。)
- 眼鏡 ※コンタクトの人は一式, 煮沸用具の電圧確認!(予備があれば持って行く)

機内で便利

- 安眠まくら(エアークッション式) ※首周りを安定させて安眠に。腰に当てても楽々。
- スリッパ(ケース入り携帯用) ※機内でくつろぐためとホテルには備え付けがないので。
- アイマスク(眼りめがね) ※機内では睡眠をとり, 体調を整えましょう。
- 耳栓 ※飛行機の騒音や耳鳴りをシャットアウト。いびき対策も。
- ウェットティッシュ ※清潔を保つため。
- ティッシュペーパー ※ポケットサイズのを多めに

【スーツケースに入れた方がよいもの】

- 衣類・下着など(Tシャツ, ポロシャツ, ジーンズ, スラックス等)
- ハンカチ, タオル, バスタオル
- トレーナー, セーター, ジャケットなど(機内は冷えることがあるので, 1枚持ち込んだ方がよい。)
- 履き慣れた運動靴, 靴, サンダル(サンダルは家の近所を散歩する時に便利です。)
- パジャマ(夏なので, Tシャツに短パンでも良いかもしれません。)
- トレーニングウェア(運動ができる服装)
- 雨具(折りたたみの傘, レインコート) ※手荷物に入れても良いです。
- 防寒具(ジャンパー, ウィンド・ブレイカー等) ※キャンプに連れて行ってもらうかもしれません。
- 水着(泳ぐことがあるかもしれません。)
- ホストファミリーへのお土産(高価になり過ぎないように, 気持ちを持っていくことを忘れずに。)

用意しておく役立つもの

- スーツケースベルト(安全と目印のため。カギが壊れた時に備えて。)
- 帽子
- 変圧器(コンバーター) ※日本の電気製品(100V)を海外で使うには電圧を変える必要があります。
- 日本食(折りたたみ箸も) ※白飯, 梅干し, みそ汁など。元気回復には効果目あり。
- 入浴用ナイロンタオル(泡立ちが良く, アカすり効果もある。シャワーだけのバスでは必需品です。)
- 双眼鏡, オペラグラス/サングラス(野球観戦の時に便利/直射日光避けに。)
- 便座除菌クリーナー(トイレの不快感もこれでOK)
- フィルムシールド(X線検査でフィルム感光防止に。高感度フィルムが増えているので。)
- 万能ナイフ(果物の調理や, ドライバーでちょっとした補修も。)
- ペンライト(部屋を暗くしてある時に足元を照らす際に。)

さよならパーティーの道具

[独自に持って行くものを書いておきましょう]

留守ご家族の皆様へのご案内

今回の旅行に際し、留守家族の皆様へ下記の通りご案内申し上げます。

1. 緊急連絡について

現地へ直接連絡を取る必要が生じた場合は、まず、以下の連絡先にご連絡下さい。
直接ご子息と連絡を取ることは避けて下さい。特に単なる様子伺いの電話はホストファミリーが一番嫌なものというアンケート結果が出ています。

【現地への連絡】

* ホームステイ期間中の滞在先ホテル

Best Western Executel (001) - 1 - 253 - 941 - 6000

【ホームステイ期間中】(7/21~8/4)

アユサイインターナショナル 港区海岸1-9-11 マリンクスタワー7F

TEL 03-3434-2636

【小旅行期間中】(8/5~8/9)

近畿日本ツーリスト株式会社 東京第3教育旅行支店

〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台3-6-1 菱和ビル3F

TEL 03-3255-2711

2. 帰国日時・到着時間について

帰国日時：2000年8月9日(水) 午後3時55分

ユナイテッド航空897便にて 成田空港第1旅客ターミナル 1階

* 到着時間は、航空機の都合により変更となることがありますので、正確な時間は到着の2時間前に下記までお問い合わせ下さい。

お問合せ先：成田国際空港到着案内

TEL 0476-34-5000

お見送り・お出迎えの皆様へ

成田空港へのお出迎えの皆様は、身分証明書(健康保険証、または運転免許証)

とこの留守家族の皆様への案内を携行して下さい。

空港警備官より出迎え便を質問されることがあります。

出発当日の案内

1. **集合日時**：2000年7月21日（金） 午後4時30分
2. **集合場所**：新東京国際（成田）空港第1旅客ターミナル4階CカウンターとDカウンターの間の案内所前
 - * J R, 京成電鉄利用者は「成田空港駅」（終点）下車
 - * 出発当日の緊急連絡先：
 - 近畿日本ツーリスト Ⅸ 03-3255-2711
 - 河野 直樹先生 Ⅸ
3. **出発までの予定**：

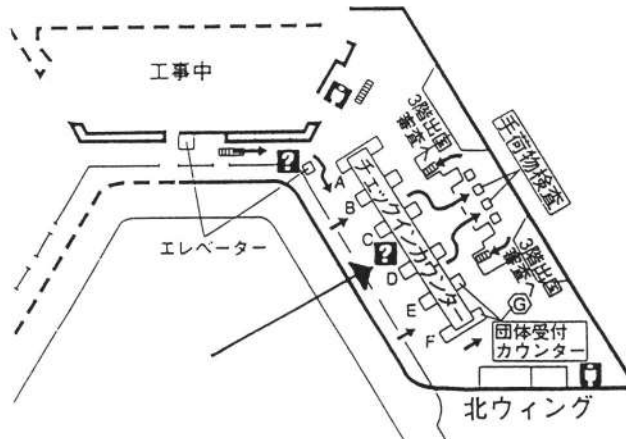
午後4時30分	受付開始（荷物受付）
午後5時00分	通関手続き開始
午後6時10分	搭乗案内
午後6時35分	ユナイテッド航空876便にて出発
4. **持参するもの** 旅券（パスポート）、渡航書類、小遣い（トラベラーズチェック）等
 - * チェックリスト参照。
5. **注 意**
 - 1) 航空会社に預けるトランクには、貴重品やお金は入れないこと。
 - 2) 貴重品、金品のたぐいは必ず身につける。
 - 3) 航空会社に預けるトランクは、一人一個に限る。
 - 4) 成田空港は入場制限を実施している関係で、参加者はこのしおりを、見送りの方は身分を証明する書類として運転免許証または保険証を必ず持参のこと。

6. 成田空港への交通

★京成電鉄ご利用の場合（運賃：1,920円）

	京成上野	日暮里	成田空港着
スカイライナー27号	14:50	14:55	15:49
スカイライナー29号	15:30	15:35	16:29

	池袋	新宿	東京	成田空港着
成田エクスプレス25号	14:04	14:12	14:33	15:28
成田エクスプレス27号		14:42	15:03	15:58
（運賃）	(3,310円)	(3,310円)	(3,140円)	

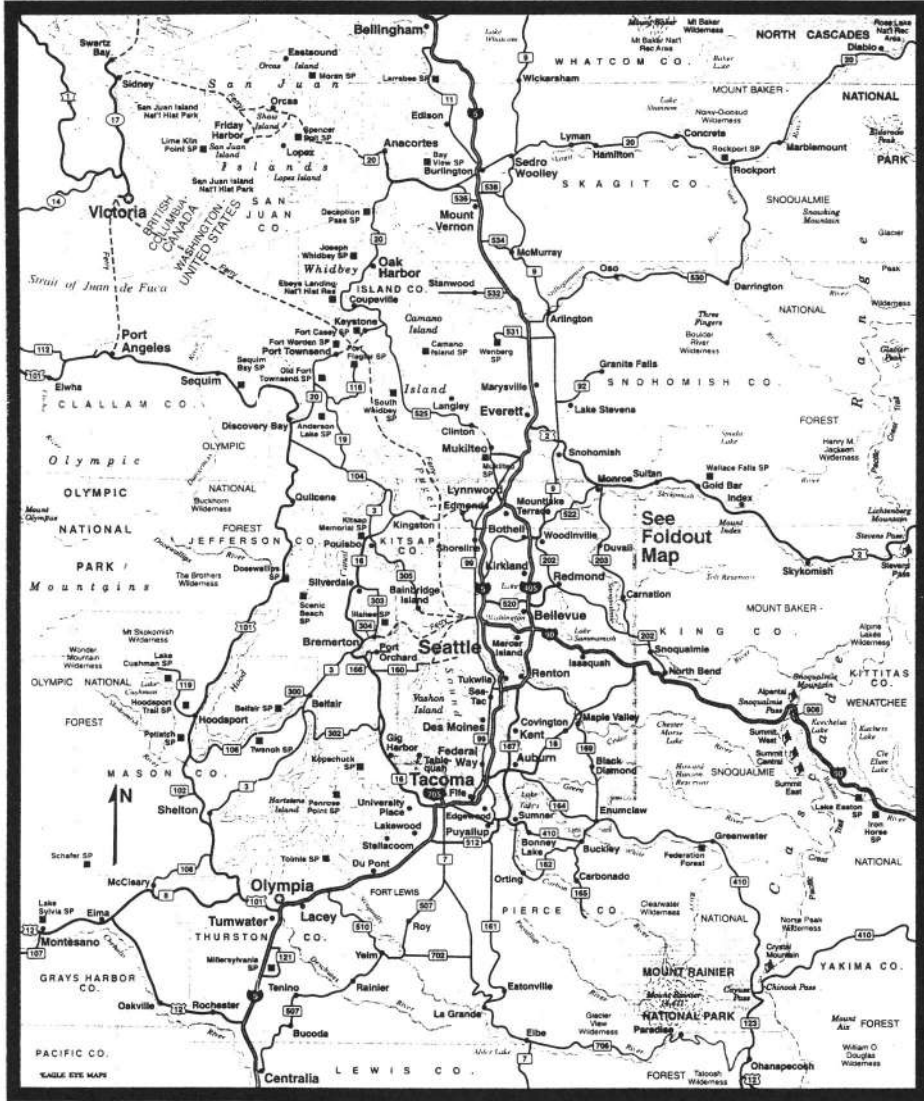


獨協高等学校 第2回ホームステイプログラム

日時	日月曜	発着地／滞在地	現地時間	交通機関	摘 要	食事
1	2000年 7月21日 (金)	東京(成田) 発 シアトル 着	18:35 11:20	U A 876 専用バス	空路, シアトルへ 到着後: ホームステイ地へ移動 (ホームステイ)	機
2 15	7月22日 (土) ? 8月4日 (金)	シアトル近郊			シアトル近郊にて ホームステイと語学研修	機
16	8月5日 (土)	シアトル サンフランシスコ	9:46 11:50	U A 2314 専用バス	シアトルより空路サンフランシスコへ。 着後: 半日市内観光 (サンフランシスコ 泊)	昼 夕
17	8月6日 (日)	サンフランシスコ	終 日	専用バス	終日: 市内観光 【アルカトラズ島観光など】 (サンフランシスコ 泊)	朝 昼 夕
18	8月7日 (月)	サンフランシスコ ロサンゼルス	10:54 12:21	U A 2027 専用バス	サンフランシスコより空路ロサンゼルスへ 着後: ユニバーサルスタジオ見学 (ロサンゼルス泊)	朝 昼
19	8月8日 (火)	ロサンゼルス	12:50	U A 897	一路, 帰国の途へ。 (機内 泊)	朝 機
20	8月9日 (水)	成田	15:55		到着, 通関後, 解散。	機

* 発着日時および交通機関は変更になることがあります。 UA: ユナイテッド航空

Seattle Vicinity Map



Map Copyright © 1999 U S WEST

高いことを強調すべきであることも痛感した。

【来年度に向けて】

今回が2回目のホームステイである。状況も段々わかってきたので、可能ならば、同じ地域、同じ学校（施設）で実施することによって、コミュニティーの方々とも継続的に良い関係が築けると思う。前述したが、ホストファミリーの多くが、是非、来年度も来てほしいと言ってくれている。考えてみると、引率教員とコーディネーターが初めて現地で会うのも不思議な現象だ。結果オーライで全てが上手く行ったから良かったようなもので、下見の検討も含め、事前に両者が連絡を取れないものだろうか。

【補足】

今回、河野が佐々木教諭に提案し、我々がお世話になったクリス先生とアン先生の家族、シャロン先生の家族をホテル近所の“東京ステーキハウス”という鉄板焼き料理に招待した。シェフのパフォーマンスが面白い店で、両家族とも、特に小さい子供たちが我々の招待を本当に喜んでくれた。そのお礼かもしれないが、2週目の日曜日の夕方、クリス先生の自宅に招待していただき、佐々木教諭と河野はアメリカ人家庭を垣間見ることができた。今回は河野の提案に佐々木教諭が快諾してくれて、我々のポケットマネーで行った。実際、我々が勝手に好きで行ったことではあるが、このように現地でお世話になる先生方に対して、食事を御馳走し、会話の機会を持つことは、お互いの親睦を深め、プログラムについての話もでき、大変良いことである。学校として、このようなことを来年度以降予算化すれば良いと思うのだが、いかがなものだろうか？

清村教諭もお世話になったお礼として、ホストマザーのズーを佐々木教諭と河野が一番よく利用した“こはる”という日本料理に招待し、ズーから大変喜ばれた。

2週目の金曜日には、現地校の学校長がわざわざ我々の教室に出向き、挨拶に来てくださった。もし、来年度以降、この学校でお世話になることがあるとすれば、本校の校長も現地に視察と称して挨拶に伺うことが国際交流の観点からは大事なことであると思う。

最後に、今回ホームステイでお世話になった家族は、このプログラムを通じて、日本にずいぶん興味を持ったようである。獨協から海外に送り出すだけではなく、アメリカからも短期でもいいから受け入れる体制を本校で検討課題にする時期であるのではないか。送り出しと受け入れ、両方を推進することが本当の国際交流であると思う。

以上

るで、かなり通常より高額であることがわかった。今回、私的な電話に関しては、佐々木教諭は日本でプリペイドカードを近ツリより購入していたので、それを使った。河野はビザカードを3枚持っていったので、それを使った。公衆電話でもクレジットカードが使えるので大変便利である。しかし、このプリペイドカードだが、いくつか種類があり、佐々木教諭が購入しものは非常に使いづらいことが旅行の途中で判明した。というのは、出発前に昨年引率なされた長谷先生が昨年度使用した残りのカードを親切にも河野にくださった。河野はシアトルではビザカードを使っていたが、サンフランシスコとロスではビザカードでは電話ができないことが判明した。そこで運良く長谷先生からいただいたカードが大変役立った。長谷先生のカードはKDDのもので、これは日本語を話すオペレーターの指示でボタンを押すだけであった。ところが、佐々木教諭の購入したものは、オペレーターに英語で日本の電話番号を告げなければならず、カードの暗証番号をも含めると、かなりの回数ボタンを押さなければならなかった。今回、日本との連絡にはホテルの電話を使用したがる、事前にKDDのカードを購入すると、かなり安い値段で費用を抑えることができることがわかった。来年度、引率なされる方は、この方法を利用した方がいいことを申し送り事項としておきたい。

【AYUSAと問題点】

今年度もホームステイ決定の遅れ、変更が最後の最後まで問題となった。当初、AYUSAの話では、6月第3週目までにはホームステイが決定するという話であったが、残念ながら結果的にはそうならなかった。全員のホームステイが決定してから25名全員に知らせるという確認であったが、かなり遅れたので、決まった生徒だけには知らせることにした。決まっていない生徒に対しては、教室に集め、教頭より事情を説明してもらった。

出発当日の午前中、ホームステイの変更が6件あり、林さんより河野の自宅に電話とファックスが入った。河野が該当の生徒の親へ連絡し、ファックスがある場合はファックス送信、ファックスがない家庭には成田空港で書類を渡すため、マンション1階のコンビニでコピーをして、本人と保護者に渡した。尚、この当日の変更については全く違う家庭との変更ではなく、入れ換えのみだったので、生徒はホストファミリーのために用意したお土産を現地で臨機応変に交換していた。この彼らの対応には我々引率教員はただただ感心した。

去年のまとめにも書いてあるが、やはりホームステイの決定は最低2週間前～10日前までにはしてほしい。また、ホームステイ説明会の時に、アメリカのボランティア・ファミリーのホームステイ決定は、このように遅れることや途中で変更する可能性が

【携帯電話について】

今回は最後の3泊4日の見学旅行の時にだけ、日本から持ってきた3台の携帯電話を使った。佐々木教諭と河野が常に一緒に行動したことから、3台は河野、清村教諭、稲田さんが持った。生徒諸君にはこの3台の携帯の番号を知らせておいた。結果的に言うと、ホームステイ中は携帯電話は必要ないと思う。ホテルの部屋には留守番電話もあったし、清村教諭はホームステイをしていたので、連絡は容易であった。見学旅行の時には、基本的にはバスで全員が移動したし、自由時間は引率教員の誰かがホテルに待機をするようにした。ユニバーサル・スタジオでは必要という意見もあるかもしれないが、実際には必要性をそれほど感じなかった。むしろレンタル料金を考えると、不要かとも思う。現在、獨協生が持っている携帯電話と同じように、必需品ではないが、あれば便利くらいのものだと我々は判断した。

【父母との対応について】

昨年度はホームステイの変更があっても、日本の家庭に連絡が行かなかったという苦情があったため、日本との連絡は密にした。ホームステイ変更に関しては、林さんとも連絡を密にし、保護者への対応を検討した。ホテルからの電話代がかさんだが、それは仕方のないことと判断した。生徒の保護者には、直接ホームステイには緊急の場合以外電話をしないように事前をお願いをしておいて、窓口を全部河野にした。今回、日本から親に連絡したのは、飛行機の中でメガネの紛失、ホームステイの変更が主なものであった。今回、1週目の水曜日にホームステイ変更が2件あった。これは横浜の女子校がホームステイに来ており、同じ家庭に日本人女子高生と男子高校生がホームステイをしたら困るという相手校からのクレームによるものである。確かにその通りであるし、そうした事情で途中での変更となった。コーディネーターのアン先生が非常に恐縮し、すぐに違うファミリーを見つけ、対応してくれた。Aくんのお母さんは、わざわざアメリカから電話をもらってすみませんという対応であったが、Bくんのお母さんの時にはかなり大変であった。これはアメリカ到着当日にホームステイが変更し、さらに再び変更したので、お母さんの気持ちもわかるが、現地を見ていない人の説得は本当に難しいことがわかった。また、この件に関しては、林さんとも連絡を取り合い、親に対してどう対応するか話し合った。現地と林さんが連絡を密にしたおかげで、保護者と溝を深くすることなく、無事対応できた。

【電話代金について】

今回ホテルの請求書を見てわかったが、ホテルからの電話は当然手数料が入ってい

【コーディネーターとの連絡】

今回はコーディネーターのアン先生には大変お世話になり、本当に頭の下がる思いであった。彼女もコーディネーターをするのは初めてのことであり、非常に熱心に仕事をてきぱきとこなしてくれた。彼女のところにホームステイをしていた岩崎くんによると、アンは夜遅くまで頻りに各ホームステイ先と電話で連絡を取り合い、本当に大変な2週間であったようだ。それは彼女が常に持っている分厚いファイルと私たちとの綿密な連絡でもわかっていた。本当に彼女の献身的な努力のおかげで今回のホームステイ大成功があったと我々引率教員は心より感謝している。

【カープールについて】

昨年度の報告によると、カープールについてかなりトラブルがあったようだが、今年度はそういうことが一切なかった。清村教諭はホストマザーのスーが学校へ送ってくれた。佐々木教諭・河野については毎朝8時半にアン先生がホテルへピックアップに来てくれた。ホテル出発後、室井くんをピックアップし（時には南くん宅へも寄った）、学校へ8時45分には到着した。ほとんどの生徒はこの時間帯に到着し、ホストファミリーは幾つかの家を回り、数人の生徒をピックアップして、学校へ到着していたようだ。午前9時から授業が始まったが、遅刻する生徒はほとんどいなく、いたとしても、朝の渋滞の影響で15分程度の遅れが2回だけだった。午後の課外活動の時にはホストファミリーが車を出してくれて、本当にホストファミリーのボランティア精神で我々のプログラムは支えられていた。

【引率教員の滞在先について】

今回は団長の佐々木教諭と河野がホテル滞在、清村教諭がホームステイをした。団長の判断で本部はホテルにすべきとした。やはり、ホームステイでは、電話を借りるにしても気を遣うし、食事のことを考えると日本食が好きな教員にはホテルの方が自由があると思う。特に、今回のホテルは立地条件が良く、近くに大きなショッピングセンターがあり、日本食レストランも徒歩10分～15分のところに3件あり、日本食の好きな佐々木教諭と河野にとっては本当に助かった。清村教諭は食事に関して好き嫌いが少なく、一人暮らしのスーと一緒にクッキーを焼くなどして、楽しく過ごすことができた。英語を積極的に勉強し、生徒と共に常に学ぼうという意欲があった。こうしたことを総合的に判断すると、ホテルかホームステイかということは、その時の引率教員の希望や団長の判断でいいと思う。

中心に買い物をしていた。

8月7日、時間通り全員揃い、無事出発。サンフランシスコからロスへと向かう。ロスでは、男性ガイドの福山さん（ロス在住27年）が待っていた。長嶋監督に似た方で、芸能人の“プリティー長嶋”に似ていたの、生徒は彼を“プリティー”と呼んでいた。

「リト」というイタリアンレストランで食事。日本人の口に合う美味な食事であった。前菜にイカのフライやチーズにサラダ。メインはヒレ肉のキノコソース。その後、Mann's Chinese Theaterに行き、有名な俳優、女優、映画監督の手形や足形を見る。ビバリーヒルズやブランド通りを過ぎて、ユニバーサル・スタジオへ向かう。ここで記念写真を撮ってから、自由時間とする。集合は夜の9時。全員遅刻することなく、無事集合。ホテルには午後9時半に到着した。こんな遅い時間なのに、生徒はホテル内の売店で店が開いている限りショッピングをしていた。ユニバーサルスタジオは本当に楽しい場所で、我々引率教員も仕事を忘れ、生徒と一緒に映画のセットを楽しんだ。

昨年度はバスの移動でかなり疲れたようだが、今年度はそれが改善され、本当に楽しい3泊4日の小旅行であった。小旅行はやるべきかどうかの議論であるが、せっかく遠くアメリカまで来ていること、それに2週間ホームステイをし、向上した英語力を彼らが試す意味でも、この小旅行は続けるべきだと判断した。場所や日程も今回の行程で問題はないと思うし、来年以降も続けるべきだと思う。

【見学旅行での添乗員派遣について】

これは昨年度、英語科と学校管理職と議論をした時に、内規の原案では教員が添乗員の仕事までするように明記されていた。しかし、昨年度も近ツリの竹内さんが見学旅行の際に日本からいらしたように、今年も昨年度を踏襲し、近ツリから稲田さんが日本から派遣されてきた。我々教員が稲田さんの仕事を見ていたが、飛行機のチェックイン、ホテルのチェックイン、ガイドとの対応、運転手のチップ、スーツケース破損の際の空港での対応等々総合的に判断すると、添乗員の派遣は必要不可欠である。教員に絶対にできない仕事か？と問われると、できる教員はいるかもしれないが、教員はあくまで生徒指導をすることが基本であり、飛行機やホテルのクーポンを管理し、チップの気を遣うことは本来の引率業務とは明らかに異なると判断する。来年度以降もホームステイ後に見学旅行を行う場合、日本からの添乗員派遣は必要不可欠である。

河野は夕食を口にする時間もなく、ホテルに到着した時には本当にグッタリであった。料理の件では清村教諭の援助なしでは絶対に成立しなかったパーティーであった。やはり、女性のきめ細やかさがないとできない企画であると感じた。

【見学旅行（小旅行）】

ホームステイ最後の日（8月4日）に近ツリの稲田さんが到着した。稲田さん到着までは引率教員が全て通訳、ガイド、ツアーコンダクター等の細かい仕事をしていたが、ここからは本当にホッとした気持ちになった。

サンフランシスコに2泊、ロサンゼルスに1泊と本当に良い旅行であった。サンフランシスコでは璃穂さん（サンフランシスコ在住30年）という年配の女性ガイドさんが付いてくれた。昨年も本校の見学旅行のガイドをしてくれたようだ。話が大変上手な方で、我々は彼女の話に自然に引き込まれた。

8月5日、サンフランシスコに到着後、貸し切りバスでチャイナタウンへ行く。中華料理の食事。その後、ツインピークスやゴールデンゲート・ブリッジを見学し、免税店に行く。ホテルのチェックインに時間がかかるため、免税店で40分程の時間を過ごした。ホテルへ向かうバスが出発する直前に、近藤くんが免税店の出口で従業員に拘束される事件が発生した。結果的には彼のCDプレーヤーが出口にある安全装置に反応し、無実であることが判明する。河野がアメリカ人従業員3人を相手に英語で強い抗議をし、相手に“I'm sorry!”を言わせる。従業員はバスの入口までわざわざ送ってくれ、深々と頭を下げた。ホテル到着後、食事のクーポンを配布、自由時間にした。河野の部屋を本部にして、18:30～19:00の間に帰着報告をするように義務づけた。ホテルのプールで泳ぐ者、買い物に出かける者、様々であった。全員無事、ホテルに帰着した。本校の生徒はホテルでは比較的小となしきしていたが、同じフロアに宿泊している福岡から来た女子大生がホテルの廊下を駆け回ったり、大きな声を出して、夜遅くまで騒いでいた。河野が騒いでいる部屋番号を確認し、内線電話で注意した。

8月6日、午前中はアルカトラズ島へ観光。刑務所の中を歩く時には日本語で案内されるテープレコーダー（ウォークマンのようなもの）を貸してくれたので、理解するのに困難はなかった。船で港に戻った後、1時間自由時間。その後、フィッシャーマンズ・ウォーフでカニ料理を食べる。それからホテルに戻り、3時間の自由時間。この日は18:50～19:00に河野の部屋へ帰着報告にした。この日も全く問題なく、全員時間通り帰着した。尚、サンフランシスコのヒルトンホテルに到着する日、バスの中でガイドさんからホテル近辺の地図が全員に配布され、それには“行っては行けない地域”が蛍光ペンで示されていた。生徒は言われた通り、ユニオンスクエア近辺を

- 17:00 1. 開始 司会から始めの言葉 食事の時間を取った
柔道のデモンストレーション
※田口くんの演出により、松井くんのホストファザーも一緒に柔道をし、
全員から拍手喝采を浴びていた。このような演出は素晴らしいと思った。
2. 二人羽織
※クリス先生始めアメリカ人が積極的に参加して、そうめん等を食べていた。
3. バンド演奏
※日本からわざわざ持ってきたギターやアンプが大活躍。
4. 全員合唱
※You are my sunshine を全員で歌う。
「上を向いて歩こう」は1番を日本語、2番を英語で歌う予定でいたが、
当日の練習で英語は無理と判断し、大きな声で日本語で歌った。
5. 団長挨拶
※山登りの時にクリス先生がソーラン節を突然歌い出したので、我々は驚いた。
そこで、団長は英語での挨拶の後、クリス先生に声をかけて、一緒に
ソーラン節を歌った。日本人、アメリカ人の2人が民謡を歌う姿は大変感動
的のもので、アメリカ人ホストファミリーからも大好評であった。国際
交流を肌で感じた。
尚、ソーラン節の歌詞はAYUSAの林さんに電話で事情を説明し、ファッ
クスでホテルに送信していただいた。林さんの素早い対応に心より感謝し
た。
6. アンより修了証授与
※一人ひとり声をかけながらの授与は感動的であった。アンが名前を間違え
てはいけないということで、河野がアンのサポートをした。
7. ホストファミリーと一緒に写真撮影
※出来上がった写真は生徒全員に2枚ずつ渡し、礼状とともに写真をホスト
ファミリーに郵送することを宿題とした。
- 21:30 司会から終わりの言葉
◎体育館の周りでは、日本の遊びのコーナーを用意した。一番人気があったの
は書道であり、アメリカ人は自分の名前を漢字、ひらがな、かたかなで書い
てもらい、大好評であった。パーティー終了後も列が途切れることがなく、
企画の終了を告げることが非常に困難であった。
体育館の片付け、全ての片付けが終了したのが夜の11時近くであり、佐々木教諭と

【さよならパーティ】

さよならパーティはホームステイの中でもメインであるので、出発前から綿密に計画を立てさせた。生徒の中から企画担当者を決め、彼らを中心に何を出し物にすべきかを話し合わせた。その結果、日本食を提供し、同時に日本の遊び等も紹介し、日本文化紹介をメインに、お世話になった方々へ感謝の気持ちを込め、恩返しをすることにした。

当日の午後は授業がないため、料理班、装飾班、バンドの練習に分かれて準備をした。司会の2人（松井くんと円谷くん）は全体の様子を見て回った。

尚、日本から持てる範囲の食材は持ってきたが、現地で調達できるものについては、現地で買うことにした。買い出しについては、前日と当日、車で15分程行ったところにあるオリエンタルマーケットで済ませた。在米韓国人が経営する店ではあるが、日本の食品もかなりあり、同行した生徒諸君は大変驚いていた。

料理は「豚汁」「天ぶら・麦茶」「チラシ寿司・そうめん」の3つに分かれて準備した。各グループとも生徒3人程が担当した。料理の準備で一番苦労したのは、レンジがガスではなく電気であったことである。電気だとお湯が沸くのに時間がかかり、そうめんを茹でるのにかなりの時間がかかってしまった。

チラシ寿司は炊飯器がたくさんあったので良かったが（ホストファミリーが持っていて、貸してくれた）、1度に3台くらいで炊いてしまい、ブレーカーが落ちていたのに気がつかず、炊けていると思って見たら、芯がたくさん残ったひどいごはんになっていた。幸い、早く準備を始めていて時間があつたので、炊き直したが、お米を大量に無駄にしてしまった。

天ぶらは、油を使うのが危ないかと思っていたが、深めのホットプレートを使ったら、そんなに危険ではなく、うまくできあがった。次回から料理用のさえ箸を使った方が安全性が増すと感じた。

豚汁は佐々木教諭がついていたので、とても美味しくできて、大好評だった。

食事については、コーディネーターのアン先生が気を利かせてくれて、事前にホストファミリーに軽めの夕食を取ってきて欲しいと連絡してくれていたのも、そんなに大量に作らないで済んだ。

食材のお金はこちら側で負担したが、紙コップや紙皿、割り箸などはイントラックス（INTRAX 現地旅行社）からお金が出ると言って、アン先生が買ってきてくれた。バンドは音楽室を借りて、ギリギリまで練習していた。

パーティーの内容は以下の通り。

た方についてツアー形式で見学した。アン先生がガイドは必要ないと言ったにもかかわらず、博物館の方でグループの人数が多いからガイドをつけると言って、結局ガイドツアーになった。アン先生の指示で、第1グループを佐々木教諭と河野が、第2グループを清村教諭とアン先生が引率した。第1グループは河野が通訳をした。第2グループは通訳なしでのツアーとなった。夜のマリナーズの試合まで時間があるので、ここでは自由時間を多く費やした。生徒たちは芝生の上で遊んだり、喫茶店でお茶を飲んだりして、自由時間を楽しんでいた。

午後4時半にシアトルマリナーズの試合を見るために、Safeco Field（野球場の名前）へ移動した。残念ながら試合は負け、佐々木投手の登板はなかったが、大リーグの試合を生で見れたことは本当に貴重な経験であった。前日に佐々木教諭が“佐々木”“獨協高校一同”というプラカードを模造紙9枚で作っておいた。獨協生にその紙を持たせ、高く掲げた結果（場所の関係で“一同”の文字は持たせられなかった）、3回表終了後、球場のバックスクリーンにあるオーロラビジョンに“佐々木 獨協高校”の文字が映し出された。みんな大喜びであった。生徒・引率教員・ホストファミリーにとって本当に大変良い思い出になった。野球が終了したのが夜9時半。球場からホストファミリーの車で直接帰宅する生徒もいた。学校にバスが到着したのが10時半。我々がホテルに着いたのが11時過ぎで、前日のハイキングの疲れもあり、佐々木教諭と河野の疲労はピークに達していた。こういう状況なので、翌日の授業時間開始を遅らせたらどうかということもアン先生と議論したが、翌日のカープール（ホストファミリーが学校まで車で送ってくれる）の手配が間に合わないということで、予定通りの授業開始となった。

[8/3(木)] Sea-Tac Mall（佐々木教諭・河野のホテルのすぐ近所）近くの映画館で上映中のいくつかの映画の中から、見たいものを選んで見た。生徒に映画はあまり人気がなく、彼らはシータックモールで買い物をしたがった。しかし、時間がなく、買い物はできなかった。それにしても、本校の生徒は、常に買い物のことばかりしか頭にないように感じた。最終日の夜、ロスのホテルの売店でも夜遅くまで買い物をしていた。

[8/4(金)] 先週の金曜日にゲームをしたグループが今回は昼食の支度をした。この日は食パンにチーズを挟んで、両側にバターを塗って焼いたものを作った。残念ながら名前を忘れてしまったが、とても美味しく、みんなお代わりをしたがった。

食後は夕方行われるさよならパーティーの準備。すべて電気で調理をするため何回かヒューズが飛んでしまい、大変な作業であったが、どうにかパーティー開始時間に間に合った。詳細は次の【さよならパーティ】で。

ただただ唾然とするばかりであった。あの体型はここから来るものと納得した。その後、Laser Tagというレーザーゲームへ行った。当初、ボーリングをする予定であったが、レーザーゲームの方が面白いのではという提案がホストファミリーの一部から出て、生徒に聞いた結果、多数決を採り、レーザータグをすることにした。レーザータグは、迷路のようなコースの中で、レーザー銃で撃ち合い、得点を競うもの。人数が多かったので、2つに分かれて行った。1試合20分程度だが、走り回り汗だくなるので、1回で充分楽しめた。河野はニュージーランドで経験したことがあるのでパスし、清村教諭だけが生徒と一緒に参加した。

[8/1(火)] Little Si Mountainへ山登り。登り1時間程度のコース。大塚さんのホストマザーが先導し、山へ登った。清村教諭の評価ではそんな辛いということだが、佐々木教諭、河野にとっては非常に辛い山登りであった。清村教諭は中間部、佐々木教諭と河野は最後尾に付いた。この後、Snolqualmie Fallsという滝へ行った。滝を見て、記念撮影だけで終わりと思ったら、滝壺まで下りることになり、“行きは良い良い帰りは恐い”を実感した行事であった(往復1時間程度あり)。生徒もこの日はたくさん歩いたので、みんな疲れているようだった。佐々木教諭と河野は体力の限界を感じていた。

[8/2(水)] 朝からシアトルへの遠足。10:30~12:00までワシントン大学のキャンパスツアー。現地スタッフ(ワシントン大学の学生)が無料で案内をしてくれる。我々だけではなく、他の一般客もいた。河野が学生さんの通訳をするが、生徒諸君は全然興味の無い様子。ただ暑い中をてれてれ歩いていた。確かに自分が留学したい大学ならまだしも、“ここが〇〇学部、ここが△△学部”と説明を聞いても全然興味は持てないと思う。まして、建物に入るわけでもない。大学そのものは大変立派な建物で、自然にも溢れていたが、こんなに長時間、この場所で費やす必要があるのだろうか?と非常に疑問に感じた。バスの中でコーディネーターのアン先生(Ann Poetter, クリス先生の奥様)に率直に聞いたところ、“自分としてはこんなプログラムは入れたくはなく、他の企画を考えていたが、去年の引率教員からの強い要望があったので、自分の意志に反して、今年もキャンパスツアーを入れた。”と言っていた(実際、引率教員はそのようなことは言っていない)。アメリカの大学を見るという経験だけならいいかもしれないが、我々引率教員の判断では、キャンパスツアーは来年度カットした方がよいという結論に達したし、昨年度の申し送り事項がどうなっているのかが甚だ疑問であった。来年度、もし同じ場所でホームステイを行うなら、このような申し送り事項が上手く機能すべきであることは言うまでもない。

昼食後はFlight Museum(航空博物館)へ行く。ここでもボーイングを定年になっ

の3時間、自然を満喫していた。紫外線が強く、サングラスが必要な理由がわかった。

[7/25(火)] The Great Supermall of the Pacific Northwest in Auburnへ行く。単なる買い物・自由時間ではなく、ある特定の商品の値段を調べ、それを必ず控えておくという授業の一環であった。午前中の授業ではクリス先生が店員、生徒が客になり、練習をしてからのショッピングであった。翌日の授業では、調べた内容をグループ毎に発表し、合計金額が一番安いグループにはクリス先生よりプレゼントが渡された。

[7/26(水)] 朝からシアトルダウンタウンへ遠足。この日は偶然、清村教諭の誕生日でもあり、バスの中ではみんなで“Happy Birthday to You!”を大合唱した。佐々木教諭と河野が誕生日プレゼントを用意し、アメリカ人ホストファミリーも交えて清村教諭の誕生日を祝ったことは大変印象に残った。今回のグループ全員が1つにまとまったという連帯感を強く感じ、とても感動的であった。アメリカは誕生日を大切に作る国で、カード売り場に行くと、バースデーカードだけでも非常にたくさんの種類が売られている。清村教諭はホームステイ先でもホストマザーのスーパーからお祝いの言葉をいただいた。

スペースニードル見学後、モノレールでウェストレイクセンターに行き、ここで解散して、自由時間にした。生徒は3時間あまりの自由時間をショッピングを中心にかなり楽しんでいただけたようだ。15時30分、バイク・ブレース・マーケットにあるブタの像の前に集合。バスの運転手さんが集合にはここが一番わかりやすい場所であると言ったので、そこにしたが、ブタが目立つわけでもなく、非常にわかりにくい場所であり、集合時間に遅れた生徒が確かにいたが、15分遅れで全員集まったことは、むしろ“Good Job!”と褒めてあげたいくらいであった。

[7/27(木)] Fennewick Parkでフリスビーゴルフを楽しむ。フリスビーゴルフは、ゴルフのようにフリスビーを決められた回数以内でゴールに入れるゲーム。森の中の自然を生かしたコースはとても素晴らしかった。4～5人のチームに分かれて、全9ホールを周る。ホストファミリーの子供たちも何人か参加していて、みんな楽しんでいた。自然の中で遊ぶという、まさにアメリカらしいスポーツであった。

[7/28(金)] 半分の生徒がゲームをし、もう半分の生徒がシャロン先生の引率で近所のスーパーマーケットにサンドイッチの材料を買い出しに行った。清村教諭が生徒と同行し、ショッピングの様子をビデオで撮影した。生徒が作ったランチを食べた後は自由時間。残りの半分の生徒は2週目にランチを作った。

[7/31(月)] 昼食はマクドナルドへ行った。各自、好きなものを購入した。アメリカのマクドナルドのLサイズやXLサイズのポテトやジュースの量はものすごく、

ラスを分割することはあったが、それはゲームをする時やランチを作る作業の時などの例外で、基本的には25人全員で行った。クリス先生は母が日本人、生まれが日本の茨城県で、12歳まで日本で育っている日本人のハーフということもあり、大変な親日家で、日本人生徒の気持ちを良く理解しながら授業を展開して下さった。私語に対して大変厳しく、ユーモアを交えた指導法は英語科引率教員にとっても大変勉強になった。

シャロン先生の日常は、学校で教員が欠勤した場合、自習監督に行く補助教員の仕事をしているようで、今回もクリス先生の補助的な役割を担っていた。この方は身体も大きい笑い声もさらに大きいユーモアたっぷりの典型的なアメリカ人女性であった。

授業の内容はだいたい“likes & dislikes”から始まっていた。これは前日、自分がしたことの好き嫌いを1人ひとり発表させるものである。1週目は生徒自身が大変消極的で、かつ英語を話すことを恐れており、クリス先生が指名するまで発表する生徒が残念ながらなかなか出なかった。そこで、クリス先生はクラス全員を立たせ、発表できた者から座らせるという方法をとった。2週目にもなると、生徒はこの方法に慣れてきて、自ら進んで手を挙げて発言するようになった。最初に答えた生徒にはプレゼント（景品）をあげるなど、クリス先生は子供たちが積極的に発言するように奮闘努力して下さった。アメリカでの生徒に対する指導法で気づいたことであるが、我々が勉強していた教室の外や体育館で行われていたバスケットボール合宿もそうであるが、常に生徒を褒める指導が中心のようで、先生方は常に“Good Job!”という言葉を繰り返していた。この言葉は聞いている方も非常に心地よく聞こえる言葉で、私は早速、2学期からの授業、特に中学1年生の授業で使用している。

その他、授業内容で印象に残っていることは、「ショッピングモール（日本で言うショッピングセンター）へ行く前に、実際にものを使っての店員と客の役割練習」「シアトルマリナーズの応援歌練習（これは球場で実践した）」「ホストファミリーへのさよならパーティーの招待状書き」等である。どれもこれも大変印象に残っている授業であった。

【午後の活動】

毎日のように午後は様々な活動が用意されていた。水曜日は授業がなく、朝から貸し切りバスでシアトルへ出かけた。

以下、毎日の午後の様子を記載したい。

[7/24(月)] Steel Lake Park へ行く。湖で泳ぐ生徒、バスケットで遊ぶ生徒。午後

い」「なかなか決まらない」という情報だけに翻弄されてしまったが、現地に行き、そんなことはどうでも良く（とまでは言わないが）、非常に献身的にボランティア精神で獨協生を温かく迎えてくれるアメリカ人ファミリーには本当に頭が下がった。特に今回は、アカデミックセンターが私立のキリスト教学校（Evergreen Lutheran High School）で、敷地内には教会（Holy Trinity Church）があり、ホストファミリーもその教会のコミュニティーの敬虔なクリスチャンが中心だったことが幸いしたのかもしれない。

生徒諸君のホームステイでの出来事を毎日のように聞いていたが、大リーグの試合に何回も連れて行ってくれる家庭、週末泊まり掛けでキャンプに連れていってくれる家庭、乗馬に連れて行ってくれる家庭、海や湖に泳ぎに連れて行ってくれる家庭など日本ではなかなかできないような経験をしていることが如実にわかった。生徒が目を輝かせながら我々引率教員に生き生きと語っている姿を見て、我々自身も各家庭で上手く行っている様子がひしひしと伝わってきて、心から安心し、同時にアメリカ人ファミリーに対し深く感謝した。

今回の経験でわかったが、最も大事なことはホームステイが早く決まり（確かに早く決まることは大事ではあるが、それだけがかかり強調され、誇張された部分が多々ある）、家族構成を知り、家族全員に何のお土産を買い、持っていくべきかなどということではなく、2週間お世話になったアメリカ人ファミリーにどう恩返しをしていくか、またどれだけ長く彼らと真の交流を続けていくかの方が何倍も大事だということを認識した。我々引率教員はこれでホームステイが終わったと考えずに、これからが本当の国際交流の始まりであることを生徒に認識させたい。最低限、お世話になったホストファミリーに今回撮影したスナップ写真を感謝の手紙とともに郵送させ、そして12月には彼らの文化の一部である年賀状に相当するクリスマスカードを必ず出させる指導までは少なくとも継続していきたい。毎日に行われる午後の野外活動やさよならパーティーで我々引率教員は多数のホストファミリーと話す機会を得たが、どの家族の皆さんもみんな口を揃えて“本当にお行儀の良い少年よ（英語では“well-behaved”という表現を使っていた）。もう日本には返したくないわ。来年もまた絶対に来てね！”とお褒めの言葉をいただき、引率という仕事よりは、むしろ日本の代表として本当にうれしく思った。そして、このような民間外交が、真の意味で国際交流の基本であると実感した。

【授業】

授業は男性のChris Poetter先生と女性のSharon Holter先生の2人が行った。ク

清村教諭が常にビデオで状況を撮影し、河野が写真を撮ることに努めた。ビデオは60分テープ7本になり、写真は36枚撮りフィルム18本にもなった。お金はビデオテープ代金、フィルム代金、現像料、焼き増し代金、さよならパーティー食料品購入等に使った。残金はホームステイ文集に使うことを決めている。彼らの思い出であるたくさんの写真の入った内容の良い素晴らしいものを作る予定である。

【しおり作成】

しおりについては近畿日本ツーリスト（以下“近ツリ”）の稲田さん、AYUSAの林さん、河野で話し合った結果、3人で原稿を出し合い、稲田さんが製本することで合意した。「表紙」「シアトル周辺のカラーコピー」「小旅行滞在ホテルRooming List」「出発当日の案内」「留守ご家族の皆様へのご案内」「支払明細メモ」「日記」「メモ」「手紙を書きませんか」「重要メモ」は稲田さんが担当してくださった。「2000年度獨協高等学校ホームステイ参加者一覧」「携帯品チェックリスト」「研修全般のアドバイス」「ホームステイ中のアドバイス」は河野が担当した。河野が担当した部分は昨年度のものを中心に参考にさせていただいたが、さらに河野が今まで海外で経験したこと、前任校での2回のニュージーランド・ホームステイ引率の経験から内容を増すことができたと自負している。稲田さん、林さん、他の2人の引率教員からもお世辞ではあるだろうが、お褒めの言葉をいただいた。林さんからファックスで近ツリに送信されたFinal Itineraryも、稲田さんがわざわざワープロで打ち直してくださり、きれいなページに仕上がった。尚、AYUSAからの最終スケジュールが近ツリに来るのが遅れた原因は、こちらから大リーグの試合を見たいという強い要望を出したため、現地でのチケット手配確認のため遅れたわけで、これはAYUSAの責任ではないことを明確にしておく。それから、しおりのなかに「ホームステイ滞在先一覧」を入れる予定であったが、ホームステイ先決定がかなり遅れたため、そのページが空欄のまま生徒に配布することになった。本来なら生徒・保護者最終ガイダンスの時に全員のホームステイ先が決定し、当日しおりを配布することを予定していたが、それが不可能になったので、ガイダンス当日、慌ててしおりの重要な部分だけをコピーし、最終ガイダンスに臨んだ。

【ホームステイ】

引率教員3人ともアメリカでのホームステイに引率するのが初めてだったため「アメリカにおけるボランティア・ファミリーのホームステイとはどういうものであるか?」ということが出発前は全くわかっていなかった。出発前は「ホームステイの決定が遅

現に、河野の前任校では、中学3年生が対象ではあったが、週1回1時間の選択授業と研修旅行（ニュージーランドや中国等）が連動されており、旅行までは事前準備に、旅行後は事後指導に授業時間が有効的に使われていた。

【保護者ガイダンス】

保護者ガイダンスは保護者だけの懇談会を1回、生徒と共に参加する説明会の形で1回の計2回行った。

●第1回目

日 時：6月17日（土）12：00～13：20

場 所：2階LL教室

内 容：教頭挨拶、近畿日本ツーリストより（海外旅行保険、TC等について）
保護者自己紹介、団長挨拶、懇談会

※この後、学級保護者会があるので、13時20分で終了とした。

●第2回目

日 時：7月1日（土）13：30～15：00

場 所：2階会議室

内 容：教頭挨拶、業者より諸注意等（AYUSA International、近畿日本ツーリスト）引率教員から諸注意、研修プログラム状況報告、質疑・応答

【新聞の発行】

昨年度発行された“ホームステイに行こう”のように、綿密にかつ頻繁に保護者・生徒へホームステイの事前プログラム情報や進行状況を伝えることは正直できなかった。しかし、教頭より昨年のように新聞を発行する形で生徒・保護者に情報を伝えるように努力して欲しいという要請を受け、清村教諭が新聞を2回発行し、現在進んでいる状況をリアルタイムに保護者に伝えることはできたと思っている。しかし、我々引率教員はホームステイの仕事だけを専属でしているわけではなく、日常の業務の合間にこの仕事をしているのである。さらに対象としているのは、高1の生徒194名中のわずか25名であり、その25名のために引率教員が時間を割き、新聞まで発行する必要が本当にあるのかどうか疑問である。

【雑費徴収】

昨年度の経験を踏まえて、事前に2万円を上乗せして費用を徴収することができた。今回はなるべく現地での生徒の様子を研修終了後、保護者に伝えることを目的とし、

いつ入るのかを必ず確認すること。

- 一番多いトラブルは食事（特に朝食）、シャワー、トイレ。

- ホームステイは客扱いはしない。家族と同じ扱い。

家庭によっては、朝食は全部自分で用意することもある。

- 何かあったら、直接ファミリーに言うこと。

引率の教員⇨学校⇨AYUSA⇨現地のコーディネーターと日本を経由すると、

かえって問題が大きくなり、トラブルの元になる。

- 昼食は、リンゴだけとかクッキーだけなどのこともある。

- お土産の心配が多いが、高価なものを購入する必要なし。

数は多めの方がいいかもしれない。

最近では、色々なものが購入できる100円ショップが便利かもしれない。

- 財布には多めの現金を入れないこと。

買い物ツアーに来たわけではない。

せいぜい100ドルも入っていればいいのではないか？

- ホストファミリーは6月の第3週目には決まる予定。

尚、この事前研修であるが、年度当初、放課後のどの曜日に設定するかについて、かなりの時間と議論を要した。結局、月曜日と金曜日を選ばなければならなかった理由は、下記の5つの条件を勘案した結果である。

- ① ボリス先生の出校日と授業時間の関係

（ボリス先生の授業が6時限目までであるのが、月と水のみ）

- ② 火曜日の放課後は教諭会議その他各種会議が予定されている。

- ③ 水・木曜日の放課後（7・8時限目）にドイツ語を履修している生徒がいる。

- ④ 水曜日は佐々木教諭と河野が研究日

- ⑤ 金曜日は清村教諭の研究日

蛇足ではあるが、このガイダンスは該当学年引率教員にとって、大変な負担なものになったのが正直なところである。結局、河野が中心となり、生徒・保護者に対応したが、清村教諭も引率教員の1人として研究日を返上してまでこのガイダンスに2回（最初と最後）参加した。尚、団長の佐々木教諭は金曜日の7時限目に中Ⅲ英語補習が入っており、ガイダンスへの参加は不可能であった。来年度も事前研修を行うことが必要不可欠であるが、学校全体の動きを考えると、今回の実施曜日並びに方法は教員・生徒ともに大変ではあったが、決して最悪の設定ではなかったと我々引率教員は判断している。但し、選択授業のように授業時間に組み込まれていれば理想である。

入った方が安心であるし、スムーズに行くのではという結論に達した。特に翌年同じ場所で実施する場合、現地の地理を熟知し、さらに現地のスタッフを知っていれば、受け入れるアメリカ側も安心できるはずである。

【事前研修・事前準備】

事前研修（英会話セミナー）は昨年度を踏襲し、英語科非常勤講師のボリス先生に依頼し、LL教室で4回に渡り行われた。6月5日（月）、12日（月）、19日（月）、26日（月）、時間は15：30～16：30である。ボリス先生はこの学年を中Iの時に全クラス担当なさっており、非常に好意的に熱心に指導してくださった。生徒諸君には事前にこのセミナーに関する文書を配布して、目的を熟知させておいた。授業は“自分のことや日本のことを話せるように準備をしておこう！”ということの基本にした。ホームステイ引率中、実際にホームステイをする清村教諭も生徒の1人として、このセミナーを受講した。このセミナーをさぼる生徒はほとんどおらず、真摯な態度で授業に臨んでいた。

尚、昨年と違う点は、今年度は4回（昨年度は6回）しか行わなかったことである。理由は後手に回ったことも否定できなくはないが、率直なところ、高1の新カリキュラムが始まり、新しい生活・勉強に慣れてほしいことから、中間考査終了後から開始した。さらに昨年度は生徒を分割し、半分は英会話セミナー、半分は事前準備の班に分けたが、今年度は分割しないで25名で行った。今年度の事前準備は、「ホームステイガイダンス」と称して、6月2日（金）、9日（金）、16日（金）、23日（金）、時間は15：30～16：30、LL教室で全4回行った。1時間では時間が足りず、オーバーすることがほとんどであった。内容は、ホームステイでの注意事項、さよならパーティーの計画が中心であった。第1回目のガイダンスにはAYUSA International職員かつ本校卒業生の林さんがわざわざ来校して下さり、貴重な話をしてくださった。本校卒業生でもあり、彼自身、学生時代にアメリカへ1年間留学した経験も持ち合わせているので、生徒は熱心に話を聞いていたし、同時に引率教員にとっても大変有意義な内容であった。

当日の話の内容を簡単にまとめると以下のものである。

- ・ホストファミリーはあくまでもボランティアだということ。

アメリカ人ホストファミリーは諸君との異文化交流を楽しみにしている。

自分自身で日本のこと、学校のことを伝えられるように。

難しい文法・単語は必要なし。

- ・ホストファミリーに初日に確認することは、シャワーやバスルームのこと。

2000年度第2回海外研修(ホームステイ)実施報告書

英語科 河野直樹

今年度のホームステイは、昨年度と同じ場所であるアメリカのシアトル近郊で2000年7月21日(金)～8月9日(水)まで実施されました。25人の生徒諸君に大きな事故も怪我もなく、彼らが大変満足して帰国し、無事終了致しました。引率者として、無事、全てのプログラムを終了したことが、最大の成果であると思っております。このホームステイを支えてくださった皆様方に深く感謝申し上げる次第です。事前研修からプログラムの内容も含めまして、ここに御報告致したいと存じます。尚、この文書は私、河野が下書きしたものを引率教員の佐々木正榮(引率教員団長、英語科主任)、清村由紀子(高1学年会所属、理科)両教諭に読んでいただき、加筆・修正したものです。

【生徒選抜方法】

生徒の選抜は現高1が中Ⅲの時に行われた。ホームステイ説明会を小講堂で行い(対象は生徒・保護者)、その後、募集に入った。定員の25名を超えたため、選抜試験を行った。選抜試験は事前に作文を書いてもらい、個別に面接を行い、25名に絞った。面接はホームステイ委員会が中心に行い、かつ、公平感を保つため、当該生徒のことを良く知らない教員を中心に行った。面接担当者は高木副教頭(当時、現在は教頭)、佐々木教諭(英語科主任)、小名教諭(前英語科主任)、志村教諭(英語科)の4人。

【引率教員人選】

昨年度を踏襲し、今年度も引率教員は3人で実施した。団長に英語科主任の佐々木教諭、当該学年からは2人(理科の清村教諭と英語科の河野)の計3人。河野は高1を担当することが決まっていたので、英語科ということもあり、引率は半ば強制的に決まったが、もう1人、英語科から誰が引率するのかについては決定まで時間を要した。ホームステイ委員会をも巻き込み、来年度、高1に上がり、引率する可能性が高いという理由で、来年度の下見も兼ねて佐々木教諭が選ばれた。これは帰国後3人で話し合ったことだが、やはり引率者の中には実際にホームステイ引率を経験した者が

To construct a test to measure the decision making ability in soccer

Takeshi Fujimura*
Kiichiro Otomi*
Takeshi Kawai**
Hiroshi Tanaka**
Yoshimasa Suda***
Jun Uchida***

Abstract

The purpose of this study was to perform the test which evaluates decision making ability in soccer and exam the relationship between decision making ability and performance in games so that we would gather the fundamental materials for coaching and the study in the future.

The subjects considered were 60 players in total on the J University football club that belongs to the Kanto University division 1 League or on the T University football club that belongs to the Tokyo University division 4 League.

The materials of this study were at first 50 decisive scenes that were selected from the world cup game in France in 1998 and edited in succession.

The materials were then, considered and analyzed with the cooperation of 4 professionals and finally 28 decisive scenes were selected as the test of 28 scenes were selected as the test of this time.

As a result of the inspection reliability and Validity it is efficient in evaluation decision making ability in soccer.

* Dokkyo junior high school and high school
** Juntendo University
*** Keio University

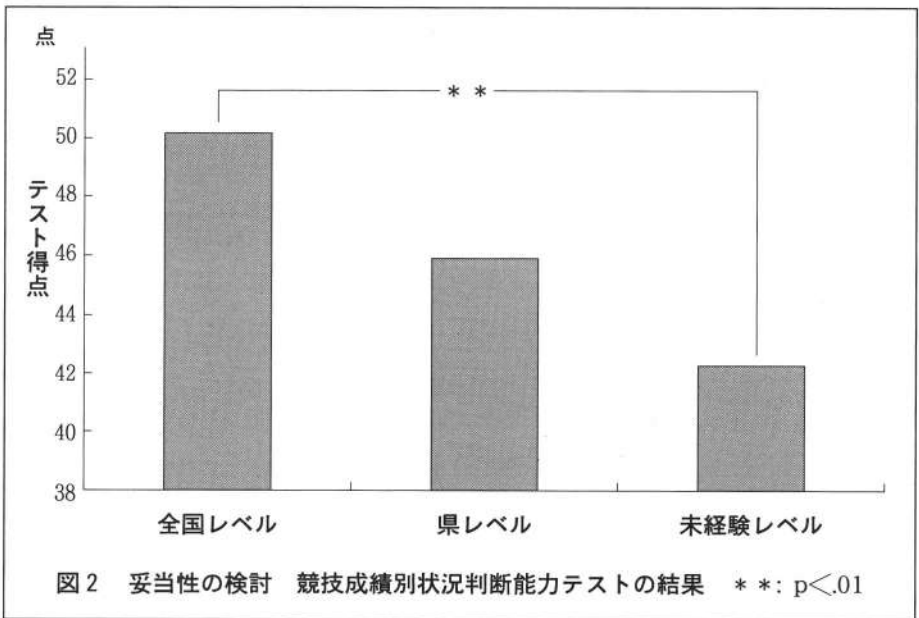
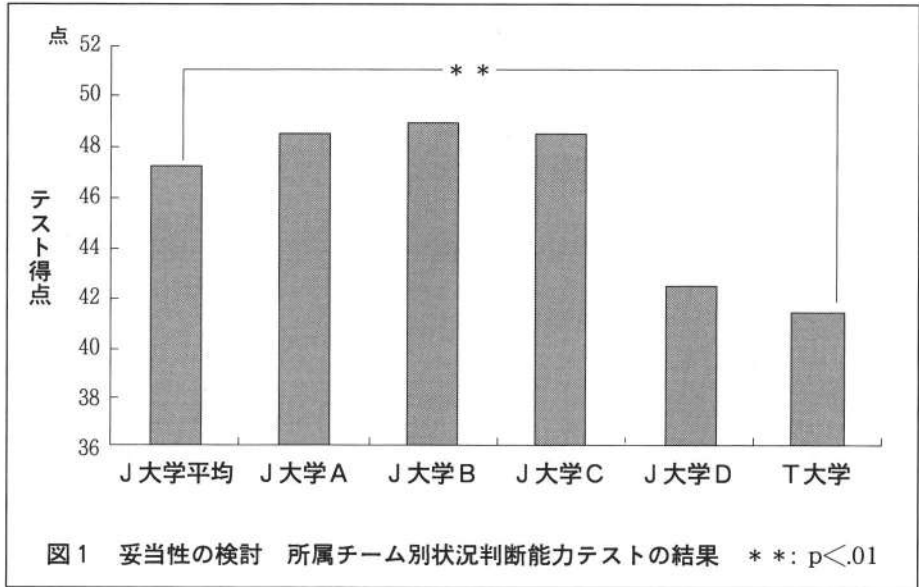


表1 状況判断能力テストのテスト項目の分析（1は正答，0は誤答）

28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	テスト得点	チーム	
1	1	1	1	1	0	1	1	1	1	1	0	1	1	1	1	1	1	0	1	1	1	1	36	A	
1	1	1	1	1	0	1	1	1	1	1	0	1	1	1	1	0	1	1	0	0	1	1	0	37	A
0	0	1	1	1	1	1	1	1	0	1	0	1	1	1	1	1	1	1	0	1	1	1	35	A	
0	1	0	1	1	1	0	1	0	1	1	0	1	1	0	0	1	1	1	1	1	1	0	33	A	
1	0	1	1	1	0	1	1	0	0	1	0	1	1	1	0	1	1	1	1	1	1	1	34	A	
0	1	0	1	0	1	1	1	0	0	1	1	0	1	1	1	0	1	1	1	1	1	1	30	A	
1	0	1	1	1	1	1	1	1	1	1	0	0	1	1	0	0	1	1	1	0	0	1	29	A	
1	1	1	0	0	0	1	1	0	1	1	0	0	0	1	1	1	1	1	0	0	0	0	26	A	
0	1	0	0	0	1	1	1	0	1	1	1	0	0	1	1	0	0	1	0	1	0	1	26	A	
1	0	0	1	1	0	0	1	0	1	1	0	1	1	1	1	1	1	0	1	1	1	1	27	A	
1	0	1	1	0	1	1	1	1	1	1	1	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	25	A	
1	0	1	1	0	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	37	B	
1	1	1	1	0	0	1	1	1	1	0	1	1	1	0	1	1	1	1	1	1	1	1	38	B	
1	1	1	1	0	1	0	1	0	0	1	1	1	1	1	1	1	1	0	1	0	1	1	35	B	
1	0	1	1	0	0	1	0	0	1	0	1	0	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	33	B	
1	0	1	1	0	0	1	0	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	0	1	0	1	33	B	
1	0	1	1	0	1	0	0	0	0	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	0	1	1	33	B	
0	1	1	0	1	0	0	1	0	0	1	0	1	1	1	1	1	0	1	1	1	1	0	32	B	
1	1	1	1	0	0	1	1	1	1	1	1	1	0	1	1	1	1	1	1	1	1	1	32	B	
0	0	0	0	1	0	1	1	1	1	1	1	1	1	0	1	1	1	1	1	1	1	1	31	B	
0	1	1	1	1	0	0	1	0	1	0	1	1	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	23	B	
1	1	1	1	0	0	1	0	0	1	1	0	1	1	1	0	1	0	1	1	1	0	1	23	B	
0	1	1	1	0	0	0	0	0	0	1	1	0	1	1	0	1	0	0	1	1	0	1	24	C	
1	0	1	1	0	1	1	1	1	1	1	1	1	1	0	1	1	1	1	1	1	1	1	39	C	
1	0	1	1	0	0	1	1	1	0	1	1	1	1	1	1	1	1	0	1	1	1	0	34	C	
1	1	0	1	0	0	1	1	1	0	1	0	1	0	1	1	1	1	1	0	1	1	1	33	C	
0	1	1	1	0	1	1	1	1	1	0	1	1	1	0	1	1	1	1	1	1	1	0	32	C	
0	0	1	0	1	0	0	1	0	0	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	0	1	0	29	C	
1	0	1	1	0	0	1	0	1	0	1	0	1	1	1	1	1	1	1	0	0	1	1	27	C	
0	1	1	0	0	1	1	1	0	1	0	1	0	1	1	0	1	0	1	1	1	1	1	29	C	
0	1	1	1	1	0	1	1	1	1	0	0	0	1	1	0	0	0	1	0	0	1	1	27	C	
1	1	1	1	0	0	0	0	0	1	0	0	1	1	0	1	1	0	1	1	1	1	0	26	C	
1	0	0	1	1	0	1	0	0	1	0	1	1	1	0	1	1	1	0	1	1	1	1	27	C	
1	1	1	1	0	1	1	1	1	0	1	0	1	1	0	1	1	1	1	1	1	1	1	37	D	
1	0	1	1	0	1	1	1	1	1	1	1	1	0	1	1	1	1	1	1	0	1	1	33	D	
0	0	1	1	0	1	1	1	1	1	1	0	1	0	1	1	1	1	1	1	1	1	1	29	D	
1	0	1	1	0	1	1	1	1	1	1	1	0	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	29	D	
1	0	1	1	0	0	0	1	0	0	1	0	1	1	1	0	1	1	1	1	0	1	0	28	D	
1	0	1	0	0	0	1	0	1	0	1	0	0	1	0	0	1	0	1	1	1	1	1	28	D	
0	0	1	1	1	0	1	1	0	1	1	0	1	0	1	1	1	1	0	1	1	1	1	26	D	
1	1	1	1	0	0	1	1	0	1	1	0	1	1	1	1	1	1	0	1	0	1	0	26	D	
1	1	1	0	0	1	0	0	0	0	1	0	1	0	1	0	1	1	1	1	0	1	0	23	D	
0	0	1	0	0	0	1	0	1	0	1	1	0	0	1	0	1	0	1	0	0	1	0	21	D	
0	1	1	0	0	1	1	0	1	1	0	1	1	1	0	0	1	1	0	0	0	0	0	21	D	
0	1	1	1	1	0	0	1	1	0	1	0	0	1	0	1	0	1	1	1	0	1	0	32	E	
0	1	0	1	1	1	1	1	1	1	1	0	0	0	1	1	0	0	1	1	1	1	1	32	E	
1	0	1	1	0	0	1	1	0	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	0	1	29	E	
1	0	1	1	1	1	0	1	1	1	1	1	0	0	1	1	0	1	1	0	1	1	1	30	E	
1	1	1	1	0	0	1	1	1	1	1	0	1	1	1	0	0	1	0	1	0	1	1	31	E	
1	1	1	0	1	0	0	1	1	0	1	0	1	1	0	1	1	1	0	1	1	1	0	26	E	
0	0	1	1	0	1	1	1	1	0	1	0	1	0	1	1	1	0	1	1	1	1	0	24	E	
1	1	1	1	1	0	1	0	0	0	1	0	0	1	0	0	1	1	1	1	0	1	0	26	E	
0	1	0	1	0	1	0	1	0	0	1	0	0	1	1	1	1	0	1	0	1	1	1	27	E	
1	0	1	1	0	0	0	1	0	0	1	1	0	1	0	0	1	0	1	0	1	0	1	25	E	
1	0	1	1	0	0	0	1	0	0	1	0	1	0	1	0	1	1	1	1	0	1	0	23	E	
1	0	1	1	0	0	1	1	0	0	1	0	0	1	0	0	1	1	1	1	0	1	1	25	E	
0	1	1	0	0	1	0	1	1	0	1	0	1	1	0	1	0	1	0	1	0	1	0	22	E	
0	0	0	0	0	1	1	0	0	1	0	1	1	1	1	1	1	0	1	0	0	0	1	25	E	
1	1	0	1	0	0	0	1	0	0	1	0	0	1	1	1	1	1	1	1	0	1	1	23	E	
1	1	0	1	0	0	1	1	0	1	1	0	0	1	0	1	0	1	0	1	1	1	0	21	E	
38	31	47	47	23	20	37	50	32	25	57	17	49	47	42	25	52	54	36	48	34	48	36	29.0	平均値	
0.63	0.52	0.78	0.78	0.38	0.33	0.62	0.8	0.53	0.42	0.95	0.28	0.82	0.78	0.70	0.42	0.87	0.90	0.60	0.80	0.57	0.80	0.60	4.72	標準偏差	
0.56	0.67	0.44	0.56	0.78	0.67	0.67	0.44	0.56	0.67	0.33	0.56	0.33	0.67	0.44	0.67	0.33	0.44	0.44	0.67	0.44	0.67	0.78			

表1 状況判断能力テストのテスト項目の分析（1は正答，0は誤答）

被験者	テスト項目	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27					
1	0	1	1	0	0	1	0	0	1	0	1	1	0	0	1	1	1	0	1	0	1	1	0	1	1	1	1	1					
2	0	1	1	0	1	1	1	0	1	1	1	0	1	1	1	1	1	1	1	0	1	1	0	1	1	1	1	1	0				
3	0	1	1	0	1	1	0	1	1	0	1	0	0	1	1	1	1	1	1	0	1	1	0	0	1	1	0	1					
4	0	1	1	0	1	1	1	0	0	0	1	0	1	1	1	1	0	1	1	0	1	1	1	1	1	1	1	0	1				
5	0	1	1	0	1	1	0	0	1	1	1	0	1	1	0	1	1	1	0	1	1	1	1	1	1	0	1	0	0				
6	0	0	1	0	1	1	1	0	1	1	1	0	0	1	1	1	0	0	1	1	0	0	0	1	0	0	1	1	0	0			
7	0	1	1	0	0	1	1	0	0	0	1	0	0	0	1	1	1	0	0	0	1	1	0	1	1	0	1	1	0	1			
8	0	0	1	0	0	1	1	0	1	0	1	1	1	0	1	1	1	0	1	1	0	0	0	1	1	0	1	1	1	0			
9	0	1	1	0	0	1	1	0	1	0	1	0	1	0	1	1	1	0	1	1	0	1	1	0	1	0	1	0	0	0			
10	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	1	1	1	1	0	1	0	0	0	0	1	1	1	1	0				
11	0	0	1	0	1	1	0	0	1	0	1	0	1	1	1	0	1	1	0	0	1	0	0	1	0	0	1	1	0	0			
12	0	1	0	0	1	1	1	0	1	1	1	0	1	1	1	1	1	1	0	0	1	1	1	1	1	0	1	0	0	0			
13	0	1	1	0	1	1	1	0	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	0	1	1	1	1	0	0	1	0	0	0			
14	0	0	1	0	1	1	1	1	1	1	1	1	0	1	0	0	1	1	0	1	1	1	1	1	1	1	1	1	0	0			
15	0	0	1	1	1	1	0	0	1	0	1	0	1	0	1	1	1	1	1	0	0	1	1	1	1	1	1	1	0	0			
16	0	1	1	1	0	1	0	1	0	1	0	1	1	1	1	1	1	1	1	0	0	1	1	1	1	0	1	1	0	0			
17	0	1	1	0	1	1	0	0	1	0	1	1	1	0	1	1	1	0	0	0	1	1	0	1	1	0	1	1	1	1			
18	0	1	1	0	1	1	0	1	0	1	0	1	1	1	1	0	1	1	0	1	0	1	1	1	0	1	1	0	1	0			
19	0	1	1	0	1	1	0	0	1	1	1	1	1	1	0	1	1	0	1	0	0	1	0	0	1	0	0	1	0	0	0		
20	0	1	1	0	0	0	1	0	0	0	1	1	1	1	1	1	1	1	0	1	1	0	0	1	0	0	1	0	0	0			
21	0	1	0	0	1	1	1	0	1	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	1	1	0	1			
22	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	1	1	1	0	1	1	0	1	0			
23	0	1	1	0	1	0	1	0	1	0	1	1	0	0	0	1	1	0	0	0	1	1	0	0	1	1	0	0	0	1	0		
24	0	1	1	0	1	1	1	0	1	0	1	1	1	0	1	1	1	0	1	0	1	1	0	1	1	0	1	1	1	1			
25	0	1	1	1	1	1	1	0	1	0	1	0	1	1	1	1	1	0	0	0	1	1	0	0	1	1	0	0	1	0			
26	0	1	1	1	0	1	0	1	1	0	1	0	1	0	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	0	0	1	0	0	0		
27	0	0	1	0	1	1	1	0	1	0	1	0	1	1	1	1	1	0	0	0	0	1	1	0	1	1	0	1	1	0	0		
28	0	1	1	0	1	1	0	0	1	0	1	1	1	0	1	1	1	0	0	1	1	0	0	1	1	0	0	0	1	0	0		
29	0	0	1	1	0	0	1	1	1	0	1	0	0	0	1	1	1	0	1	1	1	0	1	1	1	0	0	1	0	1	0		
30	0	0	1	0	0	0	1	0	1	0	1	1	0	1	1	0	1	1	0	0	1	1	1	1	1	1	1	0	0	0	0		
31	0	1	1	0	1	1	0	0	0	0	1	1	0	1	1	1	1	0	1	0	1	0	0	1	0	0	1	1	0	1			
32	0	0	1	0	1	1	0	0	1	0	1	0	1	0	1	1	1	1	1	0	1	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0		
33	0	1	0	0	1	0	0	1	0	1	1	0	1	1	0	1	1	0	1	1	0	0	1	1	0	0	1	0	0	1	0	0	
34	0	0	1	0	1	1	1	0	1	0	1	1	1	1	1	1	1	1	0	0	1	1	1	0	1	1	0	1	1	0	0		
35	0	1	1	1	1	1	0	0	1	0	1	0	1	1	1	1	0	0	0	0	0	1	1	0	1	0	1	0	1	0	0		
36	0	0	1	0	1	0	0	1	0	1	1	0	1	0	1	1	0	0	0	0	0	1	0	1	0	1	1	1	0	0	0		
37	0	1	0	0	1	1	1	0	0	0	1	1	1	1	1	1	1	1	0	0	1	1	1	0	1	1	0	1	0	1	1		
38	0	1	0	0	1	0	0	0	1	0	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	0	1	1	0	1	1	0	1	0	0	0		
39	0	1	1	0	1	1	0	0	1	1	1	1	0	0	1	1	1	0	0	1	1	0	0	1	1	0	0	1	1	0	1	0	
40	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	1	0	0	0	1	1	0	0	0	1	1	0	0	1	1	0	1	1	0	0	0	0	
41	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	1	1	1	1	1	0	0	0	1	0	0	1	0	0	1	0	0	1	0	0	
42	0	1	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	1	1	0	0	0	1	0	1	1	1	1	1	0	0	0	0	
43	0	0	1	1	0	0	1	0	0	1	0	1	0	1	1	1	0	0	1	0	1	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	
44	0	0	0	0	1	0	0	0	1	1	0	1	0	0	1	1	0	0	1	1	0	0	0	1	1	0	0	0	1	1	0	0	
45	0	1	1	0	0	0	1	0	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	0	1	1	0	1	1	0	1	1	0	1	0	
46	0	1	1	0	1	1	1	0	1	1	1	0	0	1	1	0	0	1	1	0	1	1	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	
47	0	1	0	1	0	1	1	0	0	0	1	1	0	0	1	0	0	1	0	0	1	1	1	1	0	0	0	0	1	0	0	0	
48	0	0	1	0	1	1	0	0	0	0	1	1	0	1	1	1	0	1	0	1	0	1	1	1	0	1	0	0	0	0	0	0	
49	0	1	1	0	1	1	0	0	0	0	1	1	1	1	1	1	1	0	0	1	1	1	0	1	1	0	1	0	0	0	0	0	
50	0	1	1	1	0	0	0	0	1	0	1	1	0	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	
51	0	0	1	1	1	1	0	0	1	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
52	0	0	1	1	1	1	0	0	1	0	1	0	0	0	1	1	1	0	1	0	0	1	0	0	1	0	1	0	1	0	1	0	
53	0	0	1	1	0	1	0	0	1	0	1	0	1	0	1	0	1	1	1	0	0	1	1	1	1	1	1	0	0	0	0	0	
54	0	0	1	1	0	0	1	0	0	1	1	1	0	1	1	1	1	0	0	0	1	0	0	0	1	1	0	1	0	1	0	1	0
55	0	0	1	0	1	0	0	1	1	0	0	1	1	0	1	1	0	0	0	0	0	1	0	1	0	1	1	0	0	0	0	0	0
56	0	0	1	0	1	1	0	0	1	0	1	0	0	0	1	1	1	0	0	0	1	1	1	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0
57	0	1	1	0	0	1	1	0	0	0	1	0	0	1	0	0	1	1	0	0	0	1	0	1	0	1	0	1	0	1	0	0	0
58	0	1	1	1	0	0	0	0	1	0	1	1	1	0	0	1	1	0	1	1	0	1	1	1	1	1	1	0	0	0	0	0	0
59	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	1	0	1	0	0	0	0	1	1	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0
60	0	0	1	0	0	1	0	0	1	0	0	1	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	1	0
正答者数	0	33	50	15	37	41	27	6	46	15	52	28	37	29	51	56	44	17	13	28	53	44	15	45	31	15	14						

- 20) 大西鉄之佑：ラグビー，スポーツ作戦講座，第3巻，100-101，不味堂：東京（1972）
- 21) 坂井和明，大門芳行：球技スポーツにおける状況判断能力に関する研究－バスケットボールにおける状況判断能力テスト作成の試み－，日本女子体育大学紀要，26，35-42，（1996）
- 22) 酒井忍：バスケットボール選手における認知スタイルと状況判断能力の関係について，順天堂大学修士論文，（1996）
- 23) 下園博信，山本勝昭，村上純，兄井彰：ラグビーにおける状況判断能力に及ぼす認知的トレーニングの効果－バックスプレイヤーについて－，スポーツ心理学研究，21（1），32-38，（1994）
- 24) 戸苅晴彦：サッカーの競技特性，体育の科学，24，786-789，（1978）
- 25) Wootten, M : Coaching Basketball Successfully バスケットボール勝利へのコーチング，84-102，大修館書店：東京（1994）
- 26) 山本勝昭，遠藤俊郎，伊藤友記，下園博信，兄井彰，徳島了，甲斐田修，江副成郷，山津幸司：高校バレーボールプレイヤーに対する認知的トレーニングの効果，日本体育協会スポーツ科学研究報告書集，1，25-38，（1996）
- 27) 山本裕二，井寛敬，中川昭：テニスにおける状況判断能力テスト（第一報）－作成手順－，日本体育学会第35回大会号，172，（1984）

資料1 状況判断能力テストに用いるスコアシート

場面1	
1. パス	①最終ラインを超えるスペースへのパス・スルーパス
	②縦パス（攻撃方向に背を向けているFWへのパス）
	③ワンツーパス（同サイドへの横パス）
	④展開のパス（逆サイドへの横パス）
	⑤クロスボール（GKとDFの間のスペースへのパス）
	⑥バックパス
2. ドリブル	①突破（シュート、センタリングを意識）
	②その他（引き付けのドリブル・スペースへのドリブルなど）
3. シュート	ダイレクトシュート、コントロールからシュート

引用文献

- 1) Charles, H : THE WINNING FORMULA SOCCER SKILLS AND TACTICS, 辻浅夫, 京極昌三共訳 : サッカー勝利への技術・戦術, 第1版, 大修館書店 : 東京 (1996)
- 2) ハンス・オフト : COACHING ハンス・オフトのサッカー学, 大原裕志訳, 第1版, 小学館 : 東京 (1994)
- 3) FIFAワールドカップフランス98テクニカルレポート, 財団法人に本サッカー協会 (1998)
- 4) 深倉和明 : サッカーの状況の認知に関する研究, 福島大学教育学部論集, 42, 33-39, (1987)
- 5) 深倉和明 : サッカーの状況判断に関する研究, 福島大学教育学部論集, 57, 19-24, (1995)
- 6) 池田修 : 球技指導における情報処理能力の評価方法の検討, 福岡教育大学体育研究センター紀要, 6, 11-18, (1982)
- 7) JFAnews増刊号強化指導指針1996年度版, 財団法人に本サッカー協会, (1996)
- 8) 勝部篤美, 桑野豊 : 実践コーチ教本 3. コーチのためのスポーツ人間学, 129-134, 大修館書店 : 東京 (1981)
- 9) Knight, B & Newell, P : Winning Basketball, 笠原成元監訳 : ウィニングバスケットボール, 第1版, 14-15, 98-109, 大修館書店 : 東京 (1992)
- 10) 前田明伸, 榊原英児, 山中邦夫 : キックの方向予測に関する実験的研究—サッカーのドリブルシュートについて—, 日本体育学会第33回大会号, 689, (1982)
- 11) 村上純 : ラグビーフォワードプレイヤーの予測の—狭いディスプレイにおける予測について—, 福岡大学体育学研究, 15 (1), 33-51, (1983)
- 12) 村上純 : ラグビーフォワードプレイヤーの予測 (1)—広いディスプレイにおける予測について—, 福岡大学体育学研究, 19 (2), 203-211, (1989)
- 13) 中川昭 : ラグビーのゲームセンステスト, 体育学研究, 25 (1), 21-29, (1980)
- 14) 中川昭 : ボールゲームにおける状況判断のための基本概念の検討, 体育学研究, 28 (4), 287-297, (1984)
- 15) 中川昭 : ボールゲームにおいてゲーム状況の予測の優劣が状況判断に及ぼす効果, 日本体育学会第35回大会号, 346, (1984)
- 16) 中山雅雄, 田中雅人, 松本光弘 : サッカープレイヤーの状況判断過程のモデル化, 筑波大学体育科学紀要, 11, 165-174, (1988)
- 17) 西尾末広, 本間正行, 平井敏幸, 須田和也, 田山博則 : バスケットボールプレイヤーの知覚様式と状況判断能力の関係—特に女子選手を対象として—, 日本体育大学 紀要, 20 (2), 169-173, (1991)
- 18) 奥田援史, 竹之内隆志, 山中邦夫 : サッカー選手のゲーム場面における状況判断過程の分析, スポーツ心理学研究, 18 (1), 9-16, (1991)
- 19) 小野剛 : 世界に通用するプレイヤー育成のためのクリエイティブサッカー・コーチング, 第1版, 72-79, 176-177, 大修館書店 : 東京 (1998)

とで、テストの妥当性の検討を行った。

所属チーム別に状況判断能力テストの結果を比較した。所属チームは、技能レベル別にA, B, C, Dに編成されているJ大学の4チームとT大学の5チームであった。J大学4チームの平均とT大学において、1%水準でJ大学のほうが有意に高い得点が認められた。しかし、J大学4チーム間には有意な差は認められなかった(図1)。

競技歴別に状況判断能力テストの結果を比較した。競技歴の評価は、全国レベル(全国大会経験者)、県レベル(県大会経験者)、未経験レベル(県大会未経験者)の3段階で評価した。その結果、全国レベルと未経験レベルにおいて、1%水準で全国レベルのほうが有意に高い得点が認められた。しかし、他のレベル間で有意差は認められなかった(図2)。

次に、ポジション別(DF, MF, FW)に状況判断能力テストの結果を比較したところ、それぞれのポジションの間には、有意差は認められなかった。

また、競技年数を0~3年、4~7年、8~11年、12~15の4段階に分け、状況判断能力テストの結果の比較を試みたところ、それぞれの間には有意差は認められなかった。

以上のように、ポジション及び競技年数別に比較検討した結果、有意差は認められなかった。ポジション別の比較で差が認められなかったことは、現在のサッカーでは、どのポジションにおいても同じように状況判断能力の高さが要求されていることが影響をしていると考えられた。また、競技年数別の比較においても差が認められなかったことは、被験者の平均競技年数が10.1年(0.5-15年)と、被験者のほとんどが中学校時からプレーしていることから、顕著な差が認められなかったのではないかと考えられる。

このように、状況判断能力テストの作成に関する先行研究で得られた信頼性及び妥当性の値と比較した結果、本研究では、先行研究と同等の値を得られたことにより、信頼性及び妥当性を確認することができたと考えられた。

以上ことから、本研究で作成された状況判断能力テストは、サッカーにおける状況判断能力の評価方法として、有益なテストとなる可能性が示されたと考えられた。

今後の研究課題として、コーチングの実際の場面での実用に向け、さらにテストの信頼性及び妥当性を検討するとともに、より簡便にテストが行える方法に関しても検討を加えたい。また、本研究は、大学サッカー部員を対象として行ったが、ユース年代、ジュニアユース年代、ジュニア年代など、年代別の比較に関しても、今後の課題として研究を行う必要があるといえる。

を得て、J大学蹴球部コーチ3名の解答と一致したテスト項目が条件を満たしている
妥当なテスト項目とし、13項目を除去した。

以上、テスト項目として適していない27項目があげられたが、重複している項目が
あったため、最終的に22項目を除去し、28項目から構成されるVTRを作成した。

なお、このVTRの所要時間は約10分間であった。

2. 信頼性の検討

テスト項目の分析の結果、選定した28項目についての信頼性の検討を、次の2つの
方法により検討した。

第1の方法として、被験者60名のデータをもとに折半法による検討を行った。その
際、できるだけ平行となるような2つの部分テスト（奇数番号のテスト項目と偶数番
号のテスト項目）を作り、スピアマノン・ブラウンの公式を用いて、相関係数を算出し
た。

折半法により、2つの部分テスト間の相関係数を算出した結果、 $r = 0.449$ ($P < .01$)
で、有意な相関が認められた。

第2の方法として、再テスト法による検討をJ大学の被験者36名を対象に行った。
同じテストを1ヶ月の間隔をおいて繰り返し実施した。この2回のテスト得点につい
て、両者の相関係数を算出した結果、 $r = 0.749$ ($P < .01$)で、有意な相関が認めら
れ、高い結果が得られた。

本研究は、酒井(1997)²⁰⁾の研究で指摘されている2つの問題点、1つはテスト項
目数の不足という問題点、もう一つはある程度同質の技能レベルと考えられる、関東
大学1部リーグに所属する3大学のプレーヤーを対象とした結果、信頼性係数が低下
したという問題点を改善できるように注意した。

以上のことから、本研究で作成した状況判断能力テストの信頼性を確認することが
できた。

再テスト法では、高い相関を認めることができた。しかし、折半法においては、中
川が作成したテストでの相関係数 $r = 0.74$ という値と比較すると、一定水準の信頼性
を有することを示す値であるとは解釈しにくいだろう。

3. 妥当性の検討

本研究では、コーチの主観的評価のみで被験者の競技力を評価することをさけるた
めに、競技力を所属チーム・競技歴・競技年数・ポジションの4つの観点から評価す
ることとした。そして、4つの観点それぞれにおいて、平均得点の差の検定を行うこ

さを評価する上で影響が出ることが予想された。実際のゲーム状況では、時間的余裕がなく、瞬時にプレーを選択しなければならない。そこで、時間設定のもっとも短い中川の研究¹³⁾を参考にした。

5. 状況判断能力テストの手続き

- (1) テスト課題：テスト課題は、それぞれの決定的場面に至るまでの一連のプレーを見て、「これからボールを持とうとしているプレーヤーはそのゲーム状況で、どんなプレーをすべきか」という質問に対して、スコアシートの9つの選択肢から適切なもの1つに○をつけることであった。

テスト実施前には、以下の4点について注意を繰り返した。

- ① ボール保持者は、その時点でシュート・パス・ドリブルのどのプレーもできる体勢にあると考える。
 - ② ボール保持者が実際に行ったプレーが必ずしも適切であるとは限らない。したがって、ボール保持者の能力や静止画像でのそのボール保持者のフォームやスタンスは考慮しない。
 - ③ 被験者自身の、体格や能力は判断の基準に入れない。
 - ④ それぞれの問題では、適切と思われるプレーを選び番号に1つだけ○をつける。
- (2) 得点化：各テスト項目において最も効果的なプレーとされる解答は、4人のサッカーの専門家（J大学蹴球部のコーチ3名と98年ワールドカップフランス大会において日本代表テクニカルスタッフとしてチームに帯同し、現在日本プロサッカーリーグ（Jリーグ）に所属しているKSチームのコーチ）が選択した解答と一致しているかどうかで決められた。解答が一致していれば1点が与えられ、一致していなければ0点とし、その合計得点が個人の状況判断能力テスト得点となった。

結果と考察

1. テスト項目の分析

表1は、被験者60名のデータを用いて50項目の項目難易度と項目分散の検討を行った結果を示したものである。まず、ほぼ全員が正解する項目とほぼ全員が不正解の項目を除去するために、困難指数が0.1以下と0.9以上の5項目を除去した。次に、回答がいくつかの項目に集中してしまう項目と回答にまとまりのない項目を除去するために、項目分散が0.3から0.7の範囲にある項目を残し、5項目を除去した。また、映像自体に問題があった4項目を除去した。残存した項目の中から、問題として適切であると思われるテスト項目を客観的に検討するために、KSチームのコーチに協力

解答方法に関しては、予備調査の段階で、この9つの選択肢以外に「4. その他」の選択肢を設け、計10の選択肢で行った結果、「4. その他」を選択する被験者はほとんどなく、選択した場合も、言葉の表現が異なっただけで、その解答は、9つの選択肢に当てはまるものであった。したがって、スコアシートは9つの選択肢を用いることとした。なお、解答方法はより簡便に行うために選択肢の一つに○をつける形式を用いることとした（資料1）。

4. 状況判断能力テストに用いるVTRの作成

- (1) 対象にした試合：対象にした試合は、1998年ワールドカップフランス大会のTV放映を録画したVTRの中から、決勝トーナメントにおける、準決勝戦のフランス対クロアチアとブラジル対オランダの2試合、3位決定戦のクロアチア対オランダの1試合、決勝戦のフランス対ブラジルの1試合、計4試合とした。
- (2) 場面の選択基準：場面の選択基準については、先行研究^{13) 21) 23) 27)}を参考にして、以下の4つの基準を設けた。
 - ① フィールドプレーヤーがボールを保持している動的な場面で、状況判断が要求されるゲーム状況であること。
 - ② 状況判断を行う上で重要となる相手ディフェンスライン、コート上でのボール及び地域情報、プレーヤーの相対的位置関係に関する情報が映っていること。
 - ③ プレー選択肢が複数考えられえること。
 - ④ 決定的場面に至るまでのプレーが約10秒間映っていること。
- (3) VTRの編集：以上の条件を満たしていると考えられる場面を50場面取りだし、VTRに収めた。テスト項目の映像は、「決定的場面に至るまでのプレーを約10秒間」、「決定的場面を3秒間」の静止画像になるように編集した。そして、「テスト項目とテスト項目の間隔（ブランクフィルム）を5秒」とし、問題の決定的場面、全50場面を連続的に呈示できるように編集した。

この映像の静止画像及びブランクフィルムの時間については、先行研究において、下記のいずれかの時間しか論文上に記載されていない。静止画像は1.5秒²⁶⁾、3秒^{5) 16)}、4秒^{4) 17)}に設定され、ブランクフィルムは、5秒¹³⁾、10秒⁶⁾に設定されているか、あるいは時間制限が設けられていない⁴⁾。また、サッカーに関する先行研究^{4) 5) 16)}では、静止画像については3秒、4秒と設定されている。ブランクフィルムについての記載は見当たらなかった。そこで、静止画像については、サッカーにおける先行研究^{5) 16)}を参考にした。ブランクフィルムに関しては、予備調査の段階で検討したところ、時間設定が長いほど、被験者が余裕を持って判断でき、判断の速

一致という方法でしか得点化することが困難であることを考えると、限られたゲーム場面における状況判断しか評価できないと考えられると述べている。

また、この方法は被験者が実際にプレーをしないために、自分自身の技術面の能力を考慮に入れて状況判断を行うのか、全く考慮に入れないで最適な技術面の能力があると仮定して状況判断を行うのかを明確に教示する必要がある。しかし、中川(1980)¹⁹⁾が述べているように、技術面の能力と切り離さずに状況判断能力の評価を行うことは、結果として、研究の生産性を損ねると考えられる。また、技術面の能力を考慮に入れて状況判断を行った場合、状況判断能力そのものを評価することが困難になることが予想される。

これまでに、中川(1980)¹⁹⁾のテストの概要及び作成手順を参考にし、ハンドボール(1982)⁶⁾、テニス(1984)²⁰⁾、及びバスケットボール(1996)²¹⁾において状況判断能力テストが作成されている。

このように、サッカーにおいては、中川(1980)¹⁹⁾のテストの概要及び作成手順を参考にし、状況判断能力を評価するテストの作成を試みた研究は見当たらない。そこで、本研究は、サッカーにおける状況判断能力テストを作成し、サッカーにおける状況判断能力と競技力の関係について検討を加え、今後のコーチング及び研究の基礎的資料を得ることを目的とした。

方 法

1. 被検者

関東大学サッカー1部リーグに所属するJ大学(これまでに、総理大臣杯6回、全日本選手権3回、計9回の大学日本一タイトル獲得の実績をもつ大学である。)蹴球部員、東京都大学サッカー4部リーグに所属するT大学サッカー部員、計60名(競技年数0.5-15年、平均競技年数10.1年)を対象とした。

2. 調査期間及び場所

調査は、平成11年9月中旬から10月下旬の約1ヶ月半実施した。場所は、J大学体育館教員室及びT大学柔道場で実施した。

3. 状況判断能力テストに用いるスコアシートの選択肢選定

テストで用いるスコアシートの選択肢は、サッカーの指導書1)を参考にした。選択肢は、ゲーム状況で考えられるプレーを、パス・ドリブル・シュートの3つに大別し、それらをさらに9つに細分した。

法のほとんどは、技術面を評価するスキルテストや体力面を評価するフィジカルテストであり、状況判断能力にはほとんど焦点が当てられていない。

戸莉 (1978)²⁰⁾ は、技術、体力などの能力をいつ、どこで、どのように発揮するかという「状況判断」を客観的にとらえることは、困難であり、現段階ではコーチの目、つまり主観的な見方や補助的に用いるゲーム分析に待つよりないと述べ、状況判断能力の評価における専門家の判断の重要性を示唆している。コーチの目による主観的な評価方法は、実際のゲームでの状況判断を問題にできるという利点がある。しかし、この評価方法は、プレーの遂行段階の観察を通じて評価されるために、プレーの遂行面の良否が状況判断能力の評価にかなり影響を与えることが予想される。

評価方法の一つとして、体育館やグラウンドなどにおいて現実のゲーム状況をシミュレートした形で人工的なゲーム状況を作り、そこでプレーヤーに実際にプレーを行わせ、プレーヤーによって下された状況判断を評価しようとする方法もある。この方法については、人工的に作ることが可能なゲーム状況はかなり限定されたものになるという問題点や、全く同一のゲーム状況を一回一回作り出すことが容易にできないといった問題点などが残されている。

実験室的テスト法は、実験室でスライド、映画、ビデオ、写真などの媒介物を通して問題となるゲーム状況を与え、それに対して行なわれる状況判断能力を評価しようとする方法である。これまでに、写真のスライド^{16) 17)}、図のスライド¹⁸⁾、ビデオ^{12) 23) 27)}、16mmフィルム^{10) 11) 13)}などを媒介物として用いてテストを実施し、状況判断を評価しようとする研究が行われている。

この方法は、本来、実験室的状況における状況判断が現実のゲームでの状況判断を適切に表しているか、という評価方法の妥当性の検討を抜きにして用いることはできない。

この妥当性の問題に関して中川 (1980)¹³⁾ は、複数の専門家の判断を基準にして得点化する主観的評価と、フィールドテストの成績との積極的関連を示すことによって、作成した映画テストの妥当性の一部を実証している。従って、このような映画を用いた実験室的テスト法は、特に研究場面において、状況判断能力の評価方法として有効なものであるとしている。しかし、実験室的テスト法には、限界があるという指摘もされている。第1の限界は、実際のゲーム状況に比べてディスプレイが非常に狭くなるという難点である。その結果、被験者は中心視によって、ほとんどの視覚情報を映像から獲得することが可能である。実際のゲーム状況では、周辺視野での情報の獲得が重要であると考えられるので、ディスプレイを広くする工夫がさらに必要であると述べている。第2の限界は、得点化の問題である。被験者の回答と専門家の判断との

サッカーにおける状況判断能力テスト作成について

藤 村 武 (獨協中学・高等学校)
音 海 紀一郎 (獨協中学・高等学校)
川 合 武 司 (順 天 堂 大 学)
田 中 博 史 (順 天 堂 大 学)
須 田 芳 正 (慶 應 義 塾 大 学)
内 田 順 (慶 應 義 塾 大 学)

緒 言

サッカーやラグビー、バスケットボールなどのボールゲームは、プレーする際のゲーム状況が絶えず多様に変化することから、実施可能なプレー選択肢が数多く存在する競技である。このような競技特性をもったボールゲームでより良い成果をおさめるためには、プレーヤーの体力的要因や技術的要因が優れているだけでなく、多様に変化するゲーム状況の中で適切なプレーを選択し遂行するための状況判断能力が優れていなければならない。ボールゲームの指導書のなかでも状況判断能力の重要さが指摘されている^{9) 20) 25)}。

状況判断について、西田 (1981)⁸⁾ は、「時々刻々と変化する状況の中で、味方や相手の動きを正確に認知し、チームのために最も効果的なプレーが何であるかを判断すること」と定義している。中川 (1984)¹⁰⁾ は、「ゲームの中で遂行するプレーに関する決定を行うこと」と定義している。また、ボールゲームにおける状況判断という概念を、情報処理的アプローチによって「外的ゲーム状況に対する選択的注意」、「ゲーム状況の認知」、「ゲーム状況の予測」、「プレーに関する決定」の4つの下位過程としモデル化している。

現代のサッカーにおける守備の戦術的な傾向では、相手に時間とスペースを与えずに積極的にボールを奪い、攻撃に結び付けようとする集中ディフェンスを基本的なコンセプトにしているため、短い時間と狭いスペースという限られた状況の中でのプレーが要求されている。そのため、現代のサッカーでは、技術的な精度を向上させると同時に、戦術的な能力、つまり状況判断能力を向上させていくことが重要な課題の一つになっている^{2) 3) 7) 19)}。

状況判断能力の向上をみるためには、また状況判断能力を競技力と比較するために、状況判断能力の評価方法が必要になってくる。しかし、従来のボールゲームの評価方

表2 中学1年時の各平均値からみた各学年の伸び(%)

	身長 (cm)	体重 (kg)	反復横とび (回)	垂直とび (cm)	背筋力 (kg)	握力 (kg)	伏臥上体 そらし (cm)	立位体前屈 (cm)	踏み台 昇降運動 (指数)
中1—中2	14.33	7.94	9.83	8.23	7.17	12.41	3.15	2.47	-0.95
中1—中3	25.09	12.73	19.01	16.80	21.58	25.48	9.89	3.53	0.13
中1—高1	30.94	16.23	24.59	23.69	27.26	33.19	12.22	6.72	-0.68
中1—高2	33.39	16.70	32.13	28.23	32.87	39.40	15.38	8.31	-3.13
中1—高3	34.15	18.92	33.77	31.76	34.24	37.68	17.58	6.90	-3.00

表1 体格および体力テストの平均値・標準偏差

	身長 (cm)	体重 (kg)	反復横とび (回)	垂直とび (cm)	背筋力 (kg)	握力 (kg)	伏臥上体 そらし (cm)	立位体前屈 (cm)	踏み台 昇降運動 (指数)
中学1年	153.0	45.6	38.2	42.1	64.4	23.2	44.1	5.6	59.9
	153.0	44.4	38.8	43.5	81.7	24.8	47.7	6.2	70.2
中学2年	160.6	52.4	41.2	47.0	75.9	29.0	46.4	7.0	59.2
	160.6	49.9	43.3	49.7	100.5	31.3	51.1	7.9	70.8
中学3年	166.3	56.5	44.0	52.1	99.0	35.1	51.3	7.6	60.0
	165.4	54.9	44.5	54.4	116.2	36.0	53.3	8.5	73.1
高校1年	169.4	59.5	45.7	56.2	108.1	38.7	53.0	9.4	59.4
	168.4	58.6	44.7	57.1	117.5	38.8	54.0	9.0	71.3
高校2年	170.7	59.9	48.0	58.9	117.1	41.6	55.3	10.3	57.6
	170.6	60.9	45.3	59.2	129.3	42.4	55.0	10.4	75.3
高校3年	171.1	61.8	48.5	61.0	119.3	40.8	56.9	9.5	57.7
	170.9	61.5	46.2	61.4	135.8	43.2	57.1	11.3	73.1

※上段は本校値、下段は全国値(1995~2000年度)

左側は平均値、右側は標準偏差値

** : 1%水準

* : 5%水準

- 13) 文部省体育局(1995) 体力・運動能力報告書
- 14) 文部省体育局(1996) 体力・運動能力報告書
- 15) 文部省体育局(1997) 体力・運動能力報告書
- 16) 文部省体育局(1998) 体力・運動能力報告書
- 17) 文部省体育局(1999) 体力・運動能力報告書
- 18) 文部省体育局(2000) 体力・運動能力報告書
- 19) 岡崎勝博(1998.12) 身体を基点とした体育授業の構築にむけて. 体育科教育
第46巻第18号 : 22.

- (3) 体力は、反復横とび、垂直とび、背筋力、握力は伸びが優れていた。それに比べて踏み台昇降運動は中学1年時から多少の変動はあるが横ばい状態である。
- (4) 体力低下については、何も体育授業で体力づくりが必要だと考えているわけではない。案外可能なのはカリキュラムの見直しではないかと考えられる。

新体力テストに移行したため、これらのことを考慮して本校生徒の体格・体力について、今後も測定継続して個々の体格・体力の伸びに検討を加えていかなければと考えている。

〔参考・引用文献〕

- 1) 青木純一郎(1997) 文部省体力テスト再考 体育の科学 Vol.47 : 847-851.
- 2) 青木純一郎(1998) 文部省の新体力テスト(仮称) 試行案の概要 体育科教育 第46巻第10号. 7 : 69-71.
- 3) 文部省体育局(1999) 新体力テスト実施要項.
- 4) 音海紀一郎(2001) 新体力テストに関する一考察. CIRCULAR 61.
- 5) 音海紀一郎(1995) 最近10年間の中学・高校生の体格・体力の文献について. CIRCULAR 56 : 191-203.
- 6) 音海紀一郎(1998) 男子中学生の体格及び体力診断テストの縦断的考察. CIRCULAR 59 : 187-193.
- 7) 青山昌二(1997) 文部資料の身長及び体重平均値にみる発育量の推移. 体育の科学 Vol.47. 2 : 136-142.
- 8) 西嶋尚彦(2000) 1964~97年における青少年の体格・運動能力の経年的推移. 第47回日本学校保健学会 : 610-611.
- 9) 野井真吾(1996) 子どもの体力・運動能力の推移～文部省「体力・運動能力調査報告書」ほかからのデータより～. コーチング・クリニック. 第10巻第3号 : 6-10.
- 10) 林 寛道(1999) 現代の子どもの体力—最低必要な体力とは—. 体育の科学 Vol.49. 1 : 14-19.
- 11) 脇田裕久(1997) 子どもの「体力・運動能力」から. 体育科教育 第45巻第14号 10 : 26-29.
- 12) 正木健雄(1998) 学校体育の成果と課題を考える. 体育科教育 第46巻第18号12 : 13-15.

$$s = \sqrt{(s_1^2 + s_2^2 + s_3^2 + s_4^2 + s_5^2 + s_6^2) \div 6}$$

によって求めた⁶⁾。

例として、身長の中学1年時→中学2年時でいえば

$$\sqrt{(7.4^2 + 6.9^2 + 4.2^2 + 4.1^2 + 4.0^2 + 4.0^2) \div 6} = 5.30$$

$$(160.6 - 153.0) \div 5.3 \times 10 = 14.33$$

したがって、中学1年時から中学2年時についての身長の伸び率は14.33%を示したことになる。

この結果から身長は中学1年時と高校3年時との間には、18.1cmの開きがあり、34.15%の伸びがみられた。同様に体重は16.2kg、18.92%の伸びがみられた。この体格の2項目は、中学1年時から高校3年時の5ヶ年間の伸びは発育期における一般的な傾向を示している。

体力テスト項目についてみると、反復横とびは高校3年時までに10.3回、33.77%の伸びがみられた。垂直とびは18.9cm、31.76%の伸びがみられた。背筋力は54.9kg、34.24%の伸び、握力は17.6kg、37.68%の伸びがそれぞれみられた。上体そらしは12.8cm、17.58%の伸び、立位体前屈は3.9cm、6.90%の伸びがそれぞれみられた。踏み台昇降運動は-2.2点、-3.00%で、この5ヶ年間で得点の伸びはみられなかった。繰り返して言うならば、敏捷性テストの反復横とび、瞬発力テストの垂直とび、筋力テストの背筋力、握力においては、31%~37%の伸びがみられ、柔軟性テストの伏臥上体そらし、立位体前屈においては、6%~17%と敏捷性、瞬発力、筋力に比べて低い伸びを示している。全身持久力テストの踏み台昇降運動においては、横ばい状態にある。青山⁷⁾は、「近年の身長発育の加速化現象と、最近の子どもたちにみられる、背筋力や柔軟性の著しい低下に代表される体力の低下も、指摘されている運動時間の減少とともに、こうした体格発育との関連もあるのであろう。学校体育における体力向上の指導にこの体格発育視点も挿入させるべきであろう。」と述べている。

<まとめ>

男子獨協中学校1年時から高校3年時までの同一生徒を対象とした5ヶ年間の体格・体力テスト結果を推移的視点で分析した結果、次のようなことがわかった。

- (1) 各年度の全国平均値と比較すると、本校値の方が全体的に体力は劣っている。特に背筋力、踏み台昇降運動の低下が著しくみられる。
- (2) 体格は、学年が進むに伴って一般的な伸びを示しているが、全体的に加速化現象である。

においては有意な差は認められなかった。

体力テスト7項目についても同様に全国値と比較した。反復横とびにおいては、中学2年時は1%水準で劣っているが、高校1年時から3年時に進むにつれて逆に、1%～5%水準で有意に本校値の方が優れている。

垂直とびにおいては、中学2年時3年時で1%水準で有意に本校値の方が劣っているが、高校時になると全国平均値まで上昇してくる。

背筋力においては、中学1年時より高校3年時までの全学年1%水準で有意に劣っている。

握力においては、中学1・2年時に1%水準で有意に劣っている。中学3年時から高校2年時にかけては全国平均値にまで回復する。そして高校3年時になるとまた1%水準で有意に劣っている。

伏臥上体そらしにおいては、中学1年時から3年時までは1～5%水準で有意に劣っているが、高校1年時から全国平均値に近づいている。

立位体前屈においては、中学1年時から高校2年時までは全国平均値並であるが、高校3年時になると1%水準で有意に劣っている。

踏み台昇降運動においては、中学1年時より高校3年時までの全学年1%水準で有意に劣っている。

本校生徒の体格・体力テスト結果を全国値と比較した結果、体格の身長・体重は、全国値と似かよった発育・発達を示しているといえよう。

体力テスト結果は、筋力の背筋力、全身持久力の踏み台昇降運動は、中学1年時より高校3年時まで1%水準で劣っている。その他の数項目においては、中学受験の影響で劣っているが、在学期間中に体力も全国値並になるが、高校2年時の2学期以降は受験勉強にと身体運動が一段と減り、その影響が高校3年時は全国平均値より劣る傾向を示している。

岡崎もこれと同じような報告をしている¹⁹⁾。

2. 学年間の伸び

表2は、中学1年時の各項目の平均値を基準として、各学年の各項目において、それぞれどれだけの伸びを示したものである。

伸び率の算出は、Tスコア変換後に行ったものである。Tスコア算出は各学年平均値から中学1年値を引き、その差を標準偏差で除して、それを10倍したものである。

この場合の標準偏差(s)は中学1年値から高校3年値までの各標準偏差 $s_1 \sim s_6$ から。伸び率は、中学1年時を100としたものである。

新体力テストは、6～11歳、12～19歳、20～64歳、65～79歳を対象にそれぞれ分かれており、全年齢（6～79歳）で共通できるテスト項目は、握力、上体起こし、長座体前屈、そして、6～64歳までの年齢では、立ち幅とび、反復横とび、20mシャトルランがあり、広い年齢範囲で体力の推移が捉えられることとなった。

中学生・高校生を対象とした体力テストの縦断的研究^{5・6)}は、文部省報告による研究⁷⁻¹²⁾に比べて少ない。

この研究は、同一生徒における中学1年入学から高校3年時の体格・体力テストの結果から、中学1年時から高校3年時までどのような発育・発達（伸び）を示すものか。その伸びの分布はどうか。それに身長伸びとの関連について、体格と体力の評価という視点において分析を試み、今後の生徒指導に対する方法を見出すための資料とする。

<方法>

対象者は平成7年度獨協中学校入学生180名のうち、本分析において中学1年時から高校3年時までである。なお、一般に高校3年時点の記録は、高校3年の4月時点での記録であるのでその後の3年生末時点までの1年間の推移はみられない。したがって丸5ヶ年間の体格・体力テスト結果の欠測値のない126名（70%）である。

分析にあたり、身長・体重・握力・背筋力は各学年とも4月の健康診断時の記録を用いた。体力テスト項目は、中学生は4月下旬から6月上旬にかけて体育授業時に測定した。高校1年時は5月上旬から6月上旬の昼休み、放課後に測定した。高校2・3年時は、5月上旬から6月下旬にかけて体育授業時と放課後に測定した。

テストは文部省の「スポーツテスト」の実施要項に準じて実施した。

<結果および考察>

1. 体格および体力テスト結果

表1は対象者126名の中学1年時から高校3年時までの体格と体力テスト結果と全国値¹³⁻¹⁸⁾の平均値と標準偏差を示したものである。

各学年の上段は獨協値（本校値）、下段は全国値である。各行の左側は平均値、右側は標準偏差である。ただし、高校3年時の体力テスト項目の平均値、標準偏差は、前年度の文部省体育局報告の記録を記載した。というのは、平成10年度より文部省は従来の体力・運動能力テストに変わり、新体力テストに移行したためである。

体格の身長・体重の2項目について、全国値と比較すると本校値の方が全て数値はやや上回っている。特に中学2年時の体重は1%水準で有意に優れている。その他に

体格・体力テストの縦断的考察

音 海 紀一郎（獨協中学・高等学校）

白 土 祐 二（獨協中学・高等学校）

音 海 哲 子（相模女子大学）

<目的>

文部省の体力・運動能力調査は、昭和36年（1961）に成立した「スポーツ振興方」にもとづき、保健体育審議会が答申した「スポーツ」（昭和38年）を基に、昭和39年（1964）より全国的に始められた。このテストのねらいは、正しいスポーツの発展と国民体力の向上にあって、中学生以上の生徒および一般勤労青少年（30歳）を対象とするものである。

テストの内容は、体力の基礎的要因をテストする体力診断テストと基礎的運動能力および選択種目のパフォーマンスをテストする運動能力テストからなっている。

その後、昭和40年（1965）には、「スポーツテスト」に若干の修正が加えられて、小学校5・6年生（10・11歳）を対象とする「小学校スポーツテスト」が追加された。

さらに、昭和42年（1967）には、30～60歳未満を対象として、日常生活の基本となる体力水準を知り、個々人に適した運動の選択に役立つことを目的に、「壮年体力テスト」が制定された。体力年齢が判定され、中・高年者に対する運動の勧めに大きな力となった。

そして、昭和58年（1983）には、小学1～4年生（6～9歳）を対象に基礎的な運動能力を評価する「小学校低・中学年運動能力テスト」が完成した。その結果は、毎年「体育の日」に発表され、体育スポーツ活動の資料として、広く活用されている¹⁾。

開始から30年以上経過した、文部省「スポーツテスト」は体力に関する学問的な考え方の変化、60歳以上の高齢者のための体力テストの開発の必要性、測定の安全性、テスト項目としての妥当性、テスト項目の数の多さ、評価基準の見直し、等検討すべき点が多く指摘されるようになった²⁾。

そのため、文部省は平成10年度（1998）を試行年度として、大幅に改定した新体力テストを試行した。そして、数箇所を改正して、平成11年度（1999）より正式に、新体力テスト³⁾と称して広く実施されている⁴⁾。

－ 執 筆 者 紹 介 －

木 村 重 利 国 語 科 教 諭
音 海 紀 一 郎 保 健 体 育 科 教 諭
河 野 直 樹 英 語 科 教 諭
藤 村 武 保 健 体 育 科 講 師

紀 要 委 員

兼 田 信 一 郎 新 井 洋 一
音 海 紀 一 郎 富 岡 卓

研究紀要 第19号

平成13年3月20日 発行

発行者 東京都文京区関口3丁目8番1号
獨協中学・高等学校 紀要委員会

印刷所 東京都北区王子本町2丁目5番4号
株式会社 王 文 社

Dokkyo Junior & Senior High School Review

No. 19

2000

Contents

Articles :

- Songs & Ballads sung from generation to generation
Based on a children's song Vol.2 Shigetoshi Kimura ... 1
- A study of longitudinal physique and physical fitness test
..... Kiichiro Otomi ... (1)
- To construct a test to measure the decision
making ability in soccer Takeshi Fujimura ... (9)

Educational Practice Report :

- My Happy Days in America Naoki KONO ... (23)

Edited by

Dokkyo Junior & Senior High School Review Committee

Address : Dokkyo Junior & Senior High School

3-8-1, Sekiguchi, Bunkyo-ku, Tokyo 112-0014